

## 令和3年度 第4回 藤沢市市民活動推進委員会 議事録

### 1 日時

2021年（令和3年）7月18日（日）午後1時～午後5時32分

### 2 場所

藤沢市役所本庁舎5階5-1会議室

### 3 出席者

(1) 委員 9人

山岡委員長、坂井副委員長、林委員、樋口委員、細沼委員、西上委員、間山委員、  
原田委員、鎌倉委員

(2) プレゼンテーション参加団体

<スタート支援コース> 5団体

- ・とことこ
- ・CSF
- ・NPO 法人紙芝居 Project
- ・22世紀のための友情計画実行委員会
- ・Rankup

<ステップアップ支援コース> 5団体

- ・特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画
- ・特定非営利活動法人地域市民みんなでつくるわいわい善行
- ・障がいのアナ
- ・湘南市民ワークショップ
- ・SASP

(3) 市側 5人

福室参事、森主幹、一瀬上級主査、緒方主査、伊佐治主任

(4) 伴走支援者 治田氏

### 4 議題

令和3年度ミライカナエル活動サポート事業（スタート支援コース・ステップアップ支援コース）の審査選考（2次審査）について

(1) プレゼンテーション（公開）

(2) 審査選考（非公開）

## 5 開催概要

### 開会

#### 藤沢市市民活動推進委員会

(山岡委員長) ただいまから、令和3年度第4回藤沢市市民活動推進委員会を開会いたします。

本委員会は、7月4日に開催予定でしたが、当日、大雨警報の発表が続いたため、開催日程を本日に変更して開催することとなったものです。

初めに、委員会の成立要件について事務局よりお願いいたします。

○事務局より、委員会成立の報告が行われた。

(山岡委員長) それでは、本日は、スタート支援コース・ステップアップ支援コースの二次審査となりますので、この後の進行につきましては、坂井部会長にお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

#### スタート支援コース・ステップアップ支援コース審査選考部会

(坂井部会長) それでは、スタート支援コース・ステップアップ支援コース審査選考部会を開会いたします。

まず、事務局より、資料確認及び本日の日程等について説明をお願いいたします。

○事務局より、資料確認及び日程等について、説明が行われた。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

### (1) プレゼンテーション ～ 第1部 ～

#### ①湘南市民ワークショップ

(坂井部会長) それでは早速、プレゼンテーションに移ってまいります。

最初は、ステップアップ支援コースの湘南市民ワークショップさんからです。Zoomの準備をお願いいたします。

司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、湘南市民ワークショップさん、「市民活動オンライン化の追求発展と成果発表」について、発表をお願いします。

(湘南市民ワークショップ) 湘南市民ワークショップ代表の清水です。よろしくお願いいたします。

本日は、当団体のメンバー、オリンピック選手も数多く育ててきたアーティスティックスイミングの宮崎コーチと2人で出席する予定だったのですが、今ちょうど当団体の

ワークショップ開催中で、私1人だけ今抜けてきましたので、今回のテーマ「市民活動オンライン化の追求発展と成果発表」についてプレゼンさせていただきます。

では、資料を共有させていただきます。

当団体は、市民講師のメンバーが多いのですが、3つの目標を軸に活動しています。

1つ目の目標として、さまざまなジャンルのワークショップを開発し、イベントも主催してきました。一般企業や商業施設でのワークショップの機会もいただいています。

2つ目の目標。講師同士の交流や勉強を進めるために、必ず月に一度の定例会を行っています。団体として活動してきたことにより信頼度が高まり、市の主催としてワークショップを行う機会もふえました。また、市の主催の市民講師イベントにも、毎回必ず参加してきました。

そんな私たちが2019年に立ち上げたプロジェクトが、「浜辺の歌サンバ2020人で踊ろう！」であり、具体的には藤沢辻堂の海岸のイメージでつくられた浜辺の歌を楽しいサンバにアレンジし、オリジナルパフォーマンスを制作して、パラリンピックも応援する気持ちで、また障がいの有無も超えて、年齢、性別を問わずに楽しめるように工夫しながら、サンバの演奏チーム、ダンスチーム、シンクロナイズドスイミングチーム、フラフープチームを発足しました。

また、ほかの団体さんとも連携し、オリパラの公式の応援プログラムの認証も受けながら、湘南各地で撮影を行い、2020人でプロモーションビデオを制作し、藤沢の魅力を全国、海外に広めたいという目標に向けて進んできました。

しかし、順調に進んでいたこの企画も、コロナにより全面的に止まってしまいました。オリパラ自体も延期となりました。

それでも、当団体のワークショップを楽しみにしてくださっている皆様の期待に応えたくて、オンライン化を進めたいと決意、昨年は初めて、ミライカナエル活動のサポートをいただき、定例会やワークショップ、成果発表イベントなども全てオンラインで実現することができました。オンラインワークショップに挑戦して、Zoomならではの利点もわかりました。

昨年、コロナで出演できなかつたいわきサンバカーニバルで共演する予定であった福島の皆様とも、距離は関係ないオンラインだからこそ一緒に交流を深め、練習することができました。

また、コロナのため部外者が立ち入れない状況であった障がい者施設とも、Zoomだ

からこそ一緒に練習できましたし、視覚障がいの方のこの黄色い服の方は全盲でいらっしゃいますが、ご自宅からご参加いただいてリピーターになってくださっています。

ことし3月にはついに、福島の湘南の交流コンサートをオンラインで開催することができました。読売新聞から取材をいただきまして、紙面にもこのように大きく取り上げていただきました。

また、宮崎コーチのシンクロ講座はだんだんとリピーターもふえ、技術も上がってきました。オリンピックを目指しているような選手の方たちにも浜辺の歌サンバを踊っていただいて、素晴らしいパフォーマンスに実行者の皆さんの歓声が上がり、オリンピックを身近に感じられる機会となりましたし、実際にこの講座から、シンクロを真剣に学び始めた方も何人かいらっしゃいます。

5月には感染防止対策を実施しながら、リアルと Zoom の両方でご参加いただける形で練習を行い、江の島をバックに、ドローンも含めて動画撮影を行うことができました。その映像を一部ごらんください。

このような形でドローン撮影を行ったんですが、こういった練習やプロモーションビデオの撮影にご参加された皆様からは、アンケートでも、本当に楽しかった、またやりたいと高い評価をいただいています。昨年度はミライカナエル活動サポートをいただいたおかげで、このように貴重な経験を積むことができました。

ことしはコロナに負けない活動を継続していき、もっとメンバーをふやし、その他のジャンルもふやしたいですし、藤沢に伝わる民話などをもとに総合的なパフォーマンス制作を目指します。テーマや脚本を公募したり、ほかの団体とのコラボは積極的に行いたいと考えています。

例えばシンクロコーチの宮崎さんは、油壺のマリンパークのイルカショーのシンクロを指導したことがあるということで、夢として、いつかは地元の江ノ島水族館でシンクロやダンスを組み合わせ、さらに歌や演奏もライブで行うミュージカルみたいなパフォーマンスをやってみたいという目標があるそうです。

そして、私自身もコロナ禍の中で、去年はさまざまなジャンルのアーティストと協力し合ってライブ配信の研さんを積みました。自分の本業であるピアノコンサートについては、県や文化庁の助成を受けて、高音質、高画質のライブ配信を複数回実現しました。

また、去年はコロナに負けない、無観客での新しい形の演劇公演にも挑戦し、役者は飛沫感染を防ぐために全員が前を向いたままで、ソーシャルディスタンスを保って立つ

ているんですが、グリーンバックを用いてクロマキー合成で、このように隣り合っているように見えるように、リアルタイムで合成しながらライブ配信をするというので、ちょっと大変な演劇公演を行いました。これは内容がコメディなので摩訶不思議な映像になるんですが、とてもおもしろくて高い評価をいただいています。一部ごらんください。

セリフはない抜粋の状況になっていますが、私は役者としてこの演劇に出演しながら、全ての劇中音楽の作曲や演奏を担当しています。オンラインの演劇ならではの面白さがあると思います。仕事としてミュージカルやダンスの舞台音楽の作曲、演奏、歌やダンスの指導もしていますし、私自身が女優として出演して、劇中音楽も担当した演劇作品は、神奈川県演劇フェスティバルで優勝、神奈川県知事賞をいただいています。

そういったこともあって、最近では、劇団を立ち上げてほしいという依頼もスタートさせようと思っています。私たち団体メンバーは皆、いろいろなジャンルの専門家であり、プロフェッショナルですので、それぞれのノウハウを生かしながら、今後はジャンルを超えた本格的な総合的パフォーマンスの公演を目指していきます。

まずは今までどおり、誰もが参加できて楽しめる初心者向け、低料金のワークショップを開催し、音楽や演劇、芸術やスポーツの魅力を広く伝えながら、これからはさらに活動の発展性として、地元ゆかりの音楽や民話などを取り入れた本格的なパフォーマンス制作にも挑戦していきます。それが将来につながっていくと思います。ぜひ引き続き、ミライカナエル事業のサポートをいただければ幸いです。

ご清聴いただき、ありがとうございました。

(坂井部会長) 発表が終わりましたので、質疑応答に移りたいと思います。委員の皆様、ご質問いかがでしょうか。

(山岡委員) ご発表、ありがとうございました。昨年度の成果ですとか、団体がお持ちのノウハウとかがすごくよくわかりました。

21年度に計画されている部分について質問なんですが、ホールでの成果発表パフォーマンスというのが、今年度はかなり大きな要素を占めているように見られるんですけども。といいますのは、支出部分で見えますと、ホール使用料とかライブ配信、音響・照明のホール公演と書いてあるものだけで、少なくとも30万円。それから、それ以外のものも、一部このホールの公演に含まれると思うんですが、ホールでの成果発表

というものはどのような内容を考えておられるのか。

それから、この事業の中でこのホールでの成果発表の必要性というか、重要性とか、その辺をもう少し補足でご説明いただきたいと思います。

(湘南市民ワークショップ) 支出においては、この成果発表が確かに大部分を占めていますが、事業としてはワークショップ、そして、この本格的なパフォーマンスの制作に時間をかけていきます。先ほども言いましたように、今までは初心者向けに広くワークショップを行っていたんですけども、それでは飽き足らずに、さらに本格的にレッスンを受けたいとか、水泳、ダンス、演奏、いろいろなものを行っているので、全て皆さん参加してくださっているんですが、それだけでなく、私たちの地元根差した民話や音楽を使って本格的なパフォーマンスを制作して発表することで、そのコンサート自体も安くても有料にする。それから、今まで初級者向けでしたが、レベルを中級、上級としていって、ワークショップの受講料も少しずつ上げていくことで、私たちは運営を自立したいと考えています。

また、せっかく私たちプロフェッショナルの講師が集まった団体ですので、湘南の魅力を伝える本格的なパフォーマンス、先ほども言いましたが、総合的なパフォーマンスでいつか江ノ島水族館で発表したいという夢もありますが、それは今年度は難しいので、その前哨戦というか、その夢に向かってまずは本格的なホールで、参加者の皆さんがアマチュアとプロフェッショナルがまざった状況で、音響や照明もプロの方をお願いした形で表現していただきたいと思っています。

(山岡委員) ちなみに、場所はどこか既にお考えでしょうか。

(湘南市民ワークショップ) 今のところは新堀の楽友ホールです。ライブ配信も含めているので、ホールでやるだけでしたらもっと安く済む。もしかして市民会館だともっと安くしていただけるという話もあるんですが、私はまだやってないので、普通の正規の料金で書いていますけれども、もうちょっと縮小することは可能です。ただ、今コロナの状況で無観客だとしても、ライブ配信したいので、さらに10万円かかってしまっています。

(坂井部会長) 私からもちょっと伺います。Zoomを取り入れて、Zoomでよかった点もあったという話をいただきました。コロナ禍が去った後、Zoomによる取り組みというのはどのようになりますでしょうか。

(湘南市民ワークショップ) Zoomは、コロナ禍の後も並行して行いたいと思っています。

というのは、いろいろな事情や障がいがある方、家から出られないとか、施設のほうは今、コロナで部外者が立ち入れないとか、そういったときでも各家庭とつながることができたということはすごく大きいと思っていますし、今までコロナ禍の前は、市内とか地域内の活動に目を向けていたんですが、こうやって Zoom を使うと、今回は東日本大震災から 10 年目のメモリアルということで福島と交流しましたがけれども、そういった遠くの方とも Zoom でリハーサルをして、そのメモリアルコンサートのときに私たちが向こうに行ったら、既に皆さんが演奏できる状態なんですね。これは本当にすごく便利で、藤沢の魅力を県外だろうが、あるいは海外に伝えることも可能だと思っていますので、オンラインの活動はコロナ禍後も継続して、リアルももちろん行いますが、並行して行っていきたいと思っています。

(坂井部会長) 予算を拝見しますと、次年度以降もこういう形を続けていくとすると、なかなか経費を節減する要素は難しいのかなとちょっと思ったんですが、補助金がない場合、この活動の継続についてはどのようにお考えでしょうか。

(湘南市民ワークショップ) 私たちは、コロナ禍で団体が物すごく減ってしまいました。ミライカナエルでこういったパンフレットをつくらせていただきましたけれども、5 月末につくって配ったんですが、既に 2 人会員がいて、さらに今月の定例会にも、新規に入りたいという方からすごくお問い合わせいただいているので、まずは会員をふやしていくということ。

それから、先ほども言いましたように、今まで受けてくださっているワークショップの方、無料か 500 円だったんですが、もっと高いレベルで長期的に受けていって、また舞台を目指していくということで、もっとワークショップの収入もふやし、そしてコンサート自体もこういう本格的なホールでやったら、お客様から 500 円とか 1000 円でも料金をいただくという形で自立していきたいと考えています。

それから、私自身が去年は個人として、先ほども言いましたが、文化庁の助成を受けていたり、ほかの市民団体、コンサートを開催する団体も主宰しているんですが、そちらも文化庁や県の助成を受けていますので、今回ぜひミライカナエルで経験を積んだ上で、将来的には団体メンバーと協力しながら、神奈川県や国の助成も考えて動いていきたいと思っています。

(樋口委員) もともとの団体の設立の活動目的であった講師の方ですとか、オンラインを使ったワークショップになかなか理解を示してもらえない、そのギャップがということ

のくんだりがあったんですけれども、ここまでのものと、今ギアチェンジしてやろうとしているところのギャップは、どうしていこうと思っていますか。

(湘南市民ワークショップ) オンラインがまだ難しいということに対してですか。

(樋口委員) ここまで湘南市民ワークショップさんがやってきた、ここまでというか、市民講師の方たちの力をかりてアップしてきて、今オンラインで芸術的などところにギアチェンジしてやっているように思うんですけれども、これまでやってきたことと、そのギャップというんでしょうか、ここにも書かれていたんですが。

(湘南市民ワークショップ) 私たちはギアチェンジとか特に考えていなくて、今までずっと、設立時から一緒に頑張っているメンバーと同じことを続けているつもりです。オンラインでハードルが高いという会員さんはもちろんいるんですが、時々参加してくれる。時々リアルで定例会もやっていますし、コロナさえおさまればもちろんリアルでやっています。団体メンバーに関しても、リアルでしかワークショップに参加できないという方も、両方並行してやっていますので、オンラインだけじゃないので、私たちとしては今までと同じことを地道に続けているという気持ちです。

(樋口委員) わかりました。ありがとうございます。

(坂井部会長) 時間も超過しましたので、以上で質問は終了にしたいと思います。どうもお疲れさまでした。

(団体入れ替え)

## ②とことこ

(とことこ) 7月2日にNPO法人設立になりました「とことこ」の濱田年古です。よろしくをお願いします。

(とことこ) 同じく、理事の萩野谷真紀子と申します。よろしくお願ひいたします。

(坂井部会長) 司会進行の坂井です。よろしくをお願いします。

それでは、とことこさん、「『Wa』プロジェクト広報事業」について発表をお願いします。

(とことこ) Wa project、とことこおはなしかい、始まり、始まり。

「ひとりひとりがつながれば世界は『Wa』であふれてく」。

「ねえ、あなた、この写真すてきよね。私も藤沢で子育てしたいわ」。都内に住むゆ



めみさんご夫婦には、間もなく赤ちゃんが生まれます。2人はキラキラの子育てを夢見て、あこがれの湘南、藤沢へ引っ越すことにしました。

駅前にはマンションの建築ラッシュ、人気の藤沢には移住者が急増しています。折しもコロナが大流行。母親教室も開催されず、知り合いもいません。初めての出産なのに、夫の立ち合いすら断られ、孤独と不安で押し潰されそうなゆめみさん。地方の親はコロナを怖がり、楽しみにしていた孫の顔すら見に来てくれませんでした。

赤ちゃんはぐずぐず泣いてばかり。夜泣きもひどく、ゆめみさんは寝不足でイライラ。このままでは虐待をしてしまうかも。ああ、誰か助けて。わらにもすがる気持ちで支援センターに電話をすると、「申しわけございません。3週間先でしたらご予約できますが」。ゆめみさんは、泣きやまない赤ちゃんと一緒に泣きました。

途方に暮れているゆめみさんに、とこところが声をかけました。とこところには、地域で悩んでいる人たちの声がたくさん届きます。若者も高齢者も孤立している人がふえているようです。このままでは痛ましい事件につながりかねません。

そこで、とこところは集いの場をつくるために立ち上がることにしました。まずは、誰もが気軽に立ち寄れる公園で「おはなしかい」を開催。目的は読み聞かせだけではありません。異世代交流とSDGsを意識しながら、とこところ・わくわく・きゅんと、心も体も動かしていきます。

お囃子保存会による太鼓体験も大人気。紙ごみで、ちぎり絵やてるてる坊主をつくりました。このちぎり絵のチョウチョウの中には、藤沢市役所の封筒がついています。わかりますか、薄緑色の。これは狙ったわけではなくて、たまたま子どもがビリビリと破って大胆に貼ったのが藤沢市役所の封筒です。これは我が家の紙ごみを持ち込みました。

藤沢の魅力や情報を伝えるために、オリジナルのふじキュン紙芝居やクイズまでつくりました。赤ちゃんからじいじ、ばあばまで大集合。しゃぼん玉、昔遊びで、大人も一緒にわくわく、きゅん。おはなしかいの様子を見にいらした近隣の高齢の方とスタッフとのおしゃべりも弾みます。子どもの幸せは周りの大人の笑顔があつてこそ。お悩みを伺って、居場所がなかった人たちにも笑顔の輪ができました。

次は、「地域交流」～はす池の巻～

ラジオ体操の会、はす池の自然を愛する会、カワセミの会、Kugenuma Father's Patrolの会、そして私たちとこところの5つの団体を一つに結び、SDGsを身近に感じられる朝活イベントを企画しました。畑は違っても、活動をもっと広めたいという地域

を愛する気持ちは一緒です。ラジオ体操ですっきり、自然環境を学んでわくわく、美しいすやかワセミの写真できゅん。犬連れの方も参加して大盛況。

たった1時間でしたが、自然環境、芸術、安全、命の重さ、まちづくりなどなど、伝わった思いはたくさん。異世代で楽しみながら学べて、満足度の高い会になりました。

とことこには、一緒に活動したいというお声がたくさん届いてきます。学生のデビュー支援ほか、活動の場を求めている方のお力にもなっていければと思っています。

とことこの理念も目指す未来も藤沢市と一緒に。「コロナにも災害にも強い、暮らす人も訪れる人も安心して過ごせるまち」を目指していきます。コロナ禍の今だからこそ、対面で人とつながることが、人とつながる場が求められています。Webの弱者が集える場も希少です。これから藤沢で生まれる命は、未来の地球を支える宝。安心して子どもを産み育てられるように、垣根を越えてWaをつなぐ仕組みを一緒につくっていきましょう。

私たちはアクセスしやすい藤沢駅徒歩圏内に、寺子屋や駆け込み寺としても機能する拠点をつくるために始動しました。市から空き家マッチングで紹介された物件は、家賃だけで何と月 22 万円。これまで市民のためにボランティアしてきた私たちが、家賃まで捻出しなくてはならないことは、さすがにきついいと思いますか。まずは一人でも多くの方に広報することが最優先、ミライカナエルのお力をおかしてください。

今後も他団体と協働していく予定です。ちなみに、七夕まつりは雨天のため7日に延期しました。大雨のときには、不安な思いでいたという方の声もありました。引越したばかりで土地勘がない方が多いので、情報提供の場になればと思っています。また、天候を気にせずに開催できる拠点が早く欲しいです。参加者の方からも熱望されています。

とことこは、人脈や経験を生かして、必要とする人へ必要とする支援が届くようにご縁のWaを結んでまいります。

私たちのメンバーは 10 名。助産師、精神福祉士、介護福祉士、美大卒、家政科卒、英語教師、そして施設のオーナー、講師、子育て支援員、イベントプランナーなどなど、子育てしながら仕事やボランティアで、地域と深くかかわる活動をしてきた愛のあふれるメンバーが集まりました。私たちの経験、人柄、人脈が何よりの財産です。

「みんなおなじ空のした ひとりひとりがつながれば 世界はWaでみちていく  
Wa! 輪 話 和 羽 環 ∞ 古き善きものと尊い命をミライへ」。

- おはなしかい終了後、大きな楠の木陰でみんなの笑顔がキラキラしていました。
- (坂井部会長) 発表は以上となります。委員の皆さん、ご質問、お願いいたします。
- (細沼委員) 現在の活動の状況をお聞きしたいんですけども。
- (とことこ) 拠点がないので、基本的には公園などを訪問しております。これから市民の家を使ったり、公共の場所を中心に会場をお借りして、講演会、イベントなどを企画しているところです。
- (細沼委員) 藤沢市内全域ということで。
- (とことこ) 特に制限は入れてないんですけども、鵜沼を中心に、まずは活動をスタートしたいと思っております。
- (山岡委員) この申請書の目標のところ、会員数 100 名、賛助会員 100 名という数字が上がっています。当たり前ですが、立ち上がったばかりだから今、ゼロとか 10 人なんですけど、これを 1 年間で 100、100 で合計 200 人の賛同者を集めるということの見通し、活動内容を見ると、ほぼ月 2 回のおはなしかいだと思うんですけど、その辺の見通しを教えてください。どういう形で会員と賛助会員を確保していくか。
- (とことこ) 私のほうからお答えさせていただきます。月 2 回のおはなしかいというのは、あくまでも広報の場と私たちは考えています。お子さんを連れてくる親御さん、私たちの活動に賛同してくださる近隣の高齢者の方もいらっしゃいますけれども、そういった方たちに広報活動をするということですね。
- 100 名ということですが、我々会員 10 名、今立ち上げ会員が 10 名いるんですけども、みんな顔の広い人間が集まりまして、各一人一人が 10 名集めたところで、まず 100 になる。それから、今中心になっている場所が鵜沼橋ですが、かつて商店街があった場所です。駅から近いということで、商店街の方たちにもお手伝いしてもらって、一緒に活動していきたい。商店街とウイン・ウインの形になっていけるといいのかな。そういったところで、人数を 100、100 で 200 というふうに上げさせていただきました。
- (樋口委員) 先ほど家賃 22 万で手が出せないとおっしゃっていましたが、住み開きの相談ですとか、鵜沼ですとか、具体的に相談を受けることがあるんですけど、この収支予算書のところはありませんが、もしそういうところが見つかって出せるとすれば、幾らくらいだったら払えるのになという金額はありますか。
- (とことこ) とても難しいところで、今、人材は集まっているのにお金がないという団体

なんですね。当初、家賃 12 万もすごくいい物件だったんですが、まず捻出できないということで、広報しながら活動に支援してくださる会員を集めて、まず 2 年ぐらいの家賃がためられるようになったら、拠点を考えようかなと。なので、この金額だったらというのは、今のところはまだ先の話になっています。

(とことこ) あと、市の空き家マッチングの方とか、家賃がかからずに貸してくださるといふ思いがある方とつなげていただければ、私たちが活動しやすいなというのが一番の思いです。

(林委員) 予算書のところを絡めて活動のやり方について質問したいんですけども、ホームページとかつくられて周知していくという中で、ホームページでは結構パッシブな、見に来てもらわないとわからないものなので、そこに見に来てもらえるような仕掛けが必要なかなと思っています。

その中で通信運搬費が 7 万で、まあまあ載っているなというところで、そのお金でどんなふう実際に会員の方に、例えば毎月メール便を送りますよとか、そういう形を通しながら活動を広げていくのか。ここの使い方も含めて、情報の発信のことをお聞きしたいなと思いました。

(とことこ) 正直なところを申し上げて、この収支予算書をつくる段階で勉強不足なところもあって、まずはホームページをつくるのに 7 万円、そこにかけさせていただければなというところもあって、月々の更新ももちろん必要なんですけれども、ずっと継続的にお金がかかってしまうと大変なので、つくるところはプロにお任せして、その後は私たちが継続できるように勉強できればなというふうには思っておりました。広報するのに一番いい形があると思うので、知識のない私たちがうまく広められるようなものを教えていただける方を求めています。

(坂井部会長) 私から 1 点だけ。団体の運営について、役員は任期があるんでしょうか。

(とことこ) 2 年を任期にしておりますが、再任を妨げないという形にはしております。

(坂井部会長) 会員総数 100 をまず目指すというお話で、100 人からの会員がいると、総会を開くのに結構大変な負担があるかなと思うんです。団体は自立させなきゃいけないんですけども、そのあたりのこともちょっと意識しながらやられるべきなのかなという感想です。

(とことこ) 先ほどの会員なんですけど、正会員 100 名というよりは、正会員だけじゃなくて、いろいろと Web を見ていただいたりとかそういうところで。でも、正会員 100 名

は求めていきたいですね。失礼いたしました。

ちょっと説明させていただきたいんですが、こちらは私たちがいつもイベントのときに使っているもの、そしてこちら、ふじキュンの編みぐるみなんですが、これはメンバーが手づくりしたものでオリジナルです。ふじキュンの紙芝居なんかも手づくりでつくって、紙芝居とクイズもやっていますので、もし使いたいという方がいらっしゃいましたら、逆にこちらを使っただけのようにできるので、お声かけいただければと思います。

(坂井部会長) 以上で終了とさせていただきます。お疲れさまでした。

(団体入れ替え)

### ③CSF

(坂井部会長) 司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、CSFさん、「スケートボードで自己肯定感を高めYO!」について発表をお願いいたします。

(CSF) CSFの代表を務めます黒崎と申します。よろしくお願いいたします。

まず、CSFの名前の由来と背景を事前に軽く説明させていただきたいと思います。

CSFの活動を始めたいと思った背景としては、もともと私が個人的に15年以上、介護、医療の世界で働いていて、所長職まで務めて、プライベートではスケートボードを25年以上経験しておりまして、スポンサーがついていた時期もありますが、今は個人で楽しく遊んでいる一人のスケーターです。9年ぐらい前から、大庭の公園でボランティアのスケートボード活動も行っております。

CSFの名前の由来ですが、単純に略語なんですけど、Cro Skate Foundationの略になっております。簡単に訳すと、土台づくりということで、Foundation。自分がスケートボードで土台づくりをして、何か世の中に貢献したいというので「CSF」になっております。

「スケートボードで自己肯定感を高めYO!」ということですが、実際どのように実施していくのかをご提案させていただきたいと思います。

まず、スケートボードのご提案をさせていただく中で、3コース用意させていただいています。スタートコースとアートコースとスクールコースです。

スタートコースが一番ベーシックなものになります。スタートコースではスケートボードの基礎を学ぶということですが、乗る、降りる、止まる、曲がる、走るを基礎として学んでいきます。

場所はどんなところでやりますかということですが、自宅、公園、スケートパークなどをご提案させていただきたいなと思っております。自宅というのはちょっとわかりづらいと思うんですが、スケートボードは単純にスケートボードで走るだけではなくて、トラックといって、タイヤや下のものを外した状態で家の中で楽しむこともできます。

スクールコースというのは、単純にもっと本格的にやりたいよという子に対しては、1時間 1000 円ぐらいで、オーリーができるところまで教えていきたいなと思っております。オーリーというのは、ここが卒業という形で最終ラインの目標に設定しています。オーリーという技は、単純にスケートボードを使ってモノを越えたり、ジャンプするようなイメージです。このオーリーという技がスケートボードをする上で基礎的なところになります。

もう一つ、アートコースですが、スケートボードは、プレーして使った後は大体廃材のごみとして捨てられてしまうので、そういうところも救っていききたい。廃材を利用して家具とか、絵を描いて楽しむというところですよ。

何で用意したかということ、スタートコースでプレーするだけということはあると思うんですが、実際スケートボードをやりたいけれども、乗るのはちょっと苦手、外に出るのもちょっと苦手、そういう人たちに対して家でもできること、スケートボードの廃材を利用してつくっていくということです。

その廃材をどこから持ってくるかということ、廃材の確保は自分自身もいっぱい廃材を持っていますし、友人や、今、藤沢市と横浜市と千葉県で5店舗、協力させていただくようなお話をいただいております。スケートボードショップから廃材を集めてもらって、それを送ってもらうという形です。費用は会費だったり、スケートボードを販売するようなこともさせていただこうかなと思っております。その中で足りない部分は、自己資金で運営していこうかなと考えております。

このアートというところ、イメージ画像を何点が添付させていただいたんですが、スケートボードの廃材をリメイクして、家具だったり、こういうものに再利用する。

タイヤの溝に植物を植えて、こういう形で提供したりします。

どういう人たちにそれを提供したいかということ、単純に貧困者だったり、不登校者だ

ったり、自殺を考えている子たちであったり、何となく自己表現ができない人たちに、スケートボードと一緒に学んでいくことによって成功体験を繰り返していくうちに、自己肯定感を高めていくという流れができたらいいなと思っております。

基本的には1年無料で貸し出しますよという形ですが、貧困者でお金を出せない人たちは、どうやったら少しでもお金をつくっていきけるか。

スケートボードにはパーツがいっぱいあるので、その中でちっちゃい部品を少しずつお小遣いで、新品の状態からかえていくということもいいんじゃないかなと思ってます。というのは、肩たたきをしたので、お母さんかお父さんから100円もらいました。じゃ何かパーツをかえていこうかと言って、自分の色にどんどん染めていく。そうすることによってスケートボードがやりたくなる。そこから外に出ていくという流れができていいなと思ってます。ここは家族とのコミュニケーション不足なところを、少しでもひきこもりの子たちのコミュニケーションのツールになればいいなと考えております。

あと、成功評価。成果目標に対しては、まだ未完成なのでここに載せてないんですが、このようなステップアップカードをつくって満足度をはかる。ステップアップしているということは楽しんでくれているということなので、そのステップアップを見ながら、心の変化とか環境の変化はカルテみたいなものをつくって落とししていこうかなと考えております。

どのように広報していくかという、もちろん個人的に月に1~2回、3回ぐらいしかやれないかもしれないですが、営業に回っていく。CSW（コミュニティソーシャルワーカー）さんに場所や施設を紹介していただいたり、あとは藤沢市のスケートボード協会の方に協力をいただいたり、そういう形で営業していこうと思っています。

(坂井部会長) 時間になりました。ご質問がある委員の方、お願いします。

(間山委員) 簡単な質問で申しわけないんですが、どのくらいスケートボードをやる方の需要を見込んでいるかというのと、スクールの場合だと、私はやったことがないのですが、けがとかも主催者が気をつけないといけないかな。予算書を見るとその辺が含まれてないのですが、その辺もご検討いただいたほうがいいかなと。2点目はアドバイスとか。

(CSF) 需要ということなんですが、今、完全ボランティアでやっているスケートボードに関しては、新規を毎日断っているぐらい、どんどんどんどん入ってきちゃいます。

必要とする方々はとても多いなというのは肌感で感じております。その中で費用に関しては、先ほどお伝えさせていただいた中から負担していこうかなと思っているんですけども。

けがに関しては、私はリスクを避けるという考え方より、ちょっと伝わり方に語弊があるかもしれないですが、リスクを好んで学んでいくということのほうがはるかに大切だなと思っています。スケートボードで1つの技を取得するにも、いろいろ分析して、いろいろ挑戦して技が得られるので、それは勉強でも、スポーツでも、人間関係でも全部一緒だなと思っているので、そういう考え方を話しながらコミュニケーションをふやしていけたらなと思っています。

(細沼委員) 私はずっと大庭地区に住んでおります。正直、スケートボードは、住民からクレームが毎日、警察のほうにも入っています。全部が全部ルールを守らずやっている人たちではないと思いますけれども、今、大庭地区のほうでも夜間の駐車場ですとかいろんなところで、「ここではスケートボードをしてはいけません。警察に通報します」という貼り紙が、最近またさらにふえたように思っています。器物破損もありますし、先ほどおっしゃいましたオーリー、その音もとてもクレームが多いと、私のほうでは認識しています。

始めるに当たりというか、今やっている方でもそうですけれども、ルールですとか、やってはいけない場所ではやらないというところを指摘していただかないと、地域としても、例えばCSWさんとか、地域の市民センターとか、営業されるに当たり、今本当にクレームが多いので、十分に対応してからでないちょっと受け入れも厳しいのではないかなというふうに思っています。その辺はいかがお考えでしょうか。

(CSF) ここは切っても切れないところで、私も肌感で、最近すごくふえてきているなと思います。先日、秋葉台体育館のほうでも、10年以上通っても何も言われなかったのが、固いタイヤがふえてきたので砂利がふえ始めるんですよ。その子たちに、こういうことをやっているから砂利がふえちゃう。使わせてもらっているだけでもありがたいわけだからと。

叱るほう、市の方が「おめえら、ダメじゃねえか」というふうに言ってきたら、それは反発しちゃうと思うんですよ。じゃ、どうやったらそこをよりよくできるのかというのは、僕たちもやったら感謝の意を込めて掃除して帰るとか、モノを壊してしまったら、保険なり賠償なり、いろんなことでちゃんと修繕していくとか、そういうこともコミュ



ニケーションがまず足りないなと思っています。

今の流れというのは、もちろんオリンピックもコロナもあって、どんどんどんどん横乗りスポーツがはやってきています。ここの勢いというのは、なかなか私たち個人では止められないですし、それで食べている人たちもいるし、喜んでいる方たちもいるので、そこをゼロにするのは難しいですけれども、私たちの活動の中で、これがいいんじゃないかな。正解は絶対出てこないんですよ、新たな部分はまだあるので。

スケートボードの文化自体も、日本ではまだ赤ちゃんみたいなイメージなので、赤ちゃんをどういうふうに大人にしていくかということ、市のほうからも私たち団体からも、もっとうこういうほうがいいんじゃないということ提案していきながら、共存していく世界をもうちょっとつくっていく目線、doubt するようなダメな部分ばかり目立ってしまうので、そうではなくて、どうやったら市の方々とお互い楽しんでいけるか、その場でちゃんと言い合うということが重要だと思っています。私たちが活動していく、これからスケートボードを学んでいく子たちは、そういう思考を持って大人になってもらいたいなと思っています。

(坂井部会長) 私から1つ伺います。

需要がたくさんあるというお話をいただいたんですけども、この事業の狙いとしては、いろんな不登校とかひきこもりとか、困難な方々ですよ。スケートボードをやりたい、やりたいと言ってくる子たちというのは、そういう子たちじゃないんじゃないかと、ちょっと想像するんですよ。ですから、この事業が検討しているそこに、どうやってたどり着くのというところをお伺いしたいと思います。

(CSF) 私も、これをどんどんどんどん拡大させようという考えではなくて、すごくミニマムな世界にどういう現状があるかということを知りたい部分、個人的に学ばせていただきたいところもあります。

こういうふうに説明すると、本来の目的がもっと大枠なんじゃないか、大衆的な部分を狙っているんじゃないかと思われるかもしれないんですけども、私は出張訪問スケートボードみたいなイメージでも全然大丈夫なんですけど、個々にちゃんとシフトして時間を使っていきたいんです。私が急に家に行って知り合うことはできないので、どなたかのお力をかりて、こんな現状でどうにもならない子がいるんだよということを私がまず学ばせていただいて、そこからどうやったらその子に一番適切なスケートボードなのか、その人に合わせた一台をどんどんどんどんつくっていくということですね。

こちらが計画したり、こちらが用意しているものに合わせてという考え方ではなくて、何が必要とされているかということに対して、スケートボードをコミュニケーションツールとして進化させていってカスタムしていく。カスタムしていく費用は、先ほどの費用で賄いたいなと思っております。カスタム技術なども基本的には自分が全てほぼほぼできますし、特殊なものであればそのときに会費を使えばなどは思っています。

(坂井部会長) 時間がないんですが、何かありますでしょうか。

(山岡委員) 今、黒崎さんのほうはそういういろいろノウハウとか技術とかお持ちだということだったんですが、メンバーの人たちも同じようにできるといいですか。

(CSF) メンバーの子たちは、基本的にはふだんはSNSとか動画編集とか、そういうことを結構得意としています。スケートボードの技術は少ししかないです。ただ、自分の知り合いにはいっぱいいるので、今このために立ち上げた団体ですので、これからもっと会員数を多くして深めていきたいなというところは考えています。

(坂井部会長) 時間が経過しましたので、以上をもって質疑を終わります。どうもお疲れさまでした。

(団体入れ替え)

#### ④NPO法人紙芝居 Project

(坂井部会長) 司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いします。

それでは、NPO法人紙芝居 Project さん、『音楽あふれる紙芝居公演』事業』についてよろしくお願いします。

(NPO法人紙芝居 Project) NPO法人紙芝居 Project、理事長の島田です。よろしくお願いいたします。

今、皆様、気になっているかと思います。こちらをごらんください。紙芝居舞台でございます。

現状においてこのコロナ禍では、多くの方たち、ご年配の方も子どもたちも、このタブレット、デジタルと Youtube に頼らざるを得ませんでした。しかしながら、どこまで行っても、このデジタルツールは画面でしかありません。紙芝居、この舞台そのものが持つ迫力、臨場感にはまさることができないんですね。我々この紙芝居 Project というものは、紙芝居＝紙の芝居という文化をしっかりと後世に残しておこう、そういう団

体でございます。

実際に多くの方たちは、この紙芝居を求めております。画面による我々の文化の触れ合い、これも皆様、我慢の限界です。オンライン飲み会、まだ続けたいですか。そんなことはありませんよね。実際に、私たちがこのミライカナエル支援サポート事業においてこの事業計画を立てて、その受け入れ先である保育園様等にご連絡をした際に、大変多くの保育園様が、ぜひ来てほしいと。子どもたちに見せてあげたいものは、この画面ではなく、このリアリティー。そして紙芝居というものは、子どもたちにおいてはこの紙だけでは存在できないんです。

保育園でもそうなんですけれども、絵本というツールがございます。しかし、あれは子どもたちが1人で楽しむこともできますし、保育士が読み聞かせすることもできるんですね。しかしながら、この紙芝居というものは裏側に文字が書いてあります。裏書きといいます。もしこれを1人で楽しみたいと思えば、絵を見て、読んでという形になっちゃうんですね。あくまで紙芝居という芸能は、演者がいて、受け取り手がいる一つの舞台という形なんです。なので、紙・芝居でございます。

だから、この紙芝居をしっかりと文化として残していこうという形になるためには、演者が必要になります。それを我々は「紙芝居師」と呼んでいるんですね。しかしながら、このコロナにおいて、彼らの職場はなくなってしまいました。イベントもございません。だから、紙芝居師が保育園でやりたい、そういった活動がすごく難しくなっちゃったんですね。

それは何かといいますと、我々団体の活動としましては、見てください、ミニ紙芝居でございます。この大きい紙芝居をミニグッズとして、おもちゃにして子どもたちに販売する。または、段ボールの紙芝居舞台、ご自宅で紙芝居がつかれるということですね。

こういったものを販売する販売収益、もしくは、病院や介護施設等に伺いながら、そちらのほうでの紙芝居公演報酬というもので事業を成り立たせますが、しかしながら、保育園というところでは報酬料を支払うことができないんですね。なぜならば、その運営費は事業全体の中でカツカツでやっているの、我々が「じゃ1回2万円かかります」と言うと、「ああ、それは払えない」と大半の方がおっしゃいました。

保育園という場所においてこの紙芝居を公演するには、そういった事業収益からの流入が必要、もしくは寄付者による支援が必要となってくる形になります。ですので、今回の事業申請において、その資金を保育園で公演するものに使いたいというのが、今回

の事業計画になります。

じゃ藤沢の保育園でどういった紙芝居をやるのか。「古事記」もそうなのですが、藤沢には皆様をご存じのとおり、「五頭龍」という立派な江の島民話がございます。その「五頭龍」を中心に、藤沢の紙芝居師、半田拓也さんがメインとなって、子どもたちに藤沢の民話をしっかり伝えていく。そういった活動を今回、事業計画としております。

藤沢の民話を聞きながら育った子どもたちが大人になって、自分の子どもたちに、「藤沢にはこんな民話があるんだよ」、その子どもたちもまた、その下の子どもたちに、「藤沢にはこんな民話があるんだよ」というふうに語り継ぐ。また、こういったしっかりとした紙芝居コンテンツ、子どもたちの情操教育に有効なものを使うことによって、藤沢で育つ子どもたちは心豊かにすくすくと育ってまいります。

私のほうは紙芝居を使って、藤沢で育つ子どもたちが藤沢という郷土愛にしっかりと心育まれ、育っていく。そしてまたこのオリジナル紙芝居等を通し、藤沢の高齢者の方たちがどう生きがいを出していくのかという中で、外に出ていくきっかけ、または世代を超えた交流をしていくきっかけとしてこういったツールを提供し、また、紙芝居公演を通して世代を超えた交流をつくっていく。そのことによって幼児教育のみならず、ご高齢者の課題についてもしっかりと解決していく。そういった活動をしていこうと考えております。藤沢市の課題を解決する紙芝居という文化、これを支える我々の団体活動をぜひ皆様にご支援いただきたいと思います、今回応募させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

(坂井部会長) それでは、これから質問させていただきたいと思います。委員の皆さん、質問をよろしく願います。

最初に私から伺います。収入のところを拝見すると、1公演 5000 円で5万円の予算を計上していますが、これはどちらからもらうということですか。先ほどの保育園ですか。

(NPO法人紙芝居 Project) こちらの収入の5万円というものは、通常、保育園様に、「じゃ2万円ください」と言っても、2万円支払えないわけなんですね。5000 円なら支払えるよというようなヒアリング等の結果が出ましたので、そういった形でいただく予定でありました。

(林委員) 紙の芝居をずっと子どもたちに提供していきたいというお話だったと思うんで

すが、このタイトルが「音楽あふれる」というところで、芝居に音楽をつける理由をお聞かせいただければと思います。

(NPO法人紙芝居 Project) 先ほどのプレゼンの中で語り尽くせなかったところなんです。子どもたちに、例えば「五頭龍」という民話がありますよ。それを子どもたちの心に刻んでいくためには、語りだけでは足りないとは思っているんですね。例えば皆様が、私もそうなんですけれども、子どものときになれ親しんだ昔話、「まんが日本昔ばなし」ですね。何が印象に残っているかという、市原悦子さんの声と、「坊一や一、よい子だ…」というあの曲ですよ。つまり、音楽というものは子どもたちの心にしっかりと残る。そういった力を持っているんですね。「五頭龍」をより子どもたちに鮮明に残していくためにも音楽が必要だと思っています。なので、オリジナル作曲という事業経費がそこに計上されています。

なおかつ、音楽を生で聞くということは、子どもたちがこの期間できなかったことなんです。もう我慢の限界でした。もう我慢ができない。だから、その子どもたちに生の音楽を聞かせてあげたい。CDとか YouTube とか、そんなものはどうでもいい。生の音楽。飛沫感染を防ぐためにも弦楽器。これが我々のチームにいますので、弦楽器による演奏であれば感染症対策においてもバッチリなので、そういった音楽を提供するというふうに考えております。

(山岡委員) このミライカナエル事業は期間が限られていまして、この事業が終わった後をどういうふうに考えておられるか。といいますのは、今回の補助金がほぼ丸々謝礼金という形なので、恐らくこれはミライカナエルが終わるとなくなっちゃうんですが、そこはどういうふうに考えておられますか。

(NPO法人紙芝居 Project) 今回、事業計画として10施設をボンと載せさせていただきました。しかしながら、この事業計画は本来の我々の計画における2年から3年分になっております。スタートアップとしてこれだけの実績が積みれば、今後のPR活動として大きく展開することができるので、今回の事業においては一気にボンと載せた形になります。

そういった中において、大体1年の中で2から3施設を検討しております。それ以外のところでは、昨年度、ことしできなかった、多分来年度以降はできるであろうイベントにおいて、しっかりとそういった公演活動をしていく。こういった活動によって得た利益、その金額を保育園での施設の公演活動に充てていくというのが我々の計画になっ

ております。

(坂井部会長) この紙芝居を演じる方というのは、何人ぐらいいらっしゃるんですか。

(NPO法人紙芝居 Project) 今年度の事業においては、現状、半田拓也さん一人になっております。

(坂井部会長) 保育園なり学校とか、その人たちが集まっている時間帯に行ってやるしかないと思うんですが、そういった時間の都合というのはつけられるということ。

(NPO法人紙芝居 Project) それは可能でございます。事実、テストケースという形で、既に年度の最初のほうで2施設やらせていただいております。それにつきましてもご協力いただいた保育施設だったんですが、午前10時、平日にやらせていただきました。月に1施設または2施設程度という形で事業計画を組んでおりますので、半田拓也さんにおかれましても日中に都合がつくとおっしゃっております。ですので、問題がない。

来年度以降どんどん、もしそういった活動がうまく展開していくことが可能になれば、ぜひ藤沢で活躍されている紙芝居師の方を募集させていただいて、そういった方たちと一緒にやっっていこうという形で計画しております。

(坂井部会長) 既にやったことがあるということなので、何か感想というのは聞いていますか。

(NPO法人紙芝居 Project) 子どもたちは大喜びですよ。例えば「古事記」の中で、最初に淡路島ができるときに、槍を突っ込んでぐるぐる回すんですけれども、それを紙芝居師が、「せーの」で、「ぐる、ぐる」とやると、子どもたちが大爆笑でございます。みんなで、グワーッとやって、終わって、紙芝居を楽しんだ後に、「やあ、半田先生！」と。「ゴリラ先生」というんですけど、「ゴリラ先生！」って集まって、集合写真を撮ったりだとか、もうぜひ来てほしいという形で、子どもが大盛り上がりなんです。

それ以上に保育士さんたちが、「ぜひ定期的に来てほしい」。保育士たちも実力者で、絵本を読み聞かせしたりとか、紙芝居をやったりするんですけれども、そういったプロの方に来ていただくことに対してすごく価値を感じているんですね。テストケースでやったところにおいては、子どもたち以上に保育士さん、保育のプロの方たちに感動していただいたという声をいただいております。

(坂井部会長) ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。

では、質問は以上になります。お疲れさまでした。

(団体入れ替え)

## ⑤22 世紀のための友情計画実行委員会

(坂井部会長) 司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、22 世紀のための友情計画実行委員会様、「22 世紀のための友情計画」について発表をお願いします。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) 皆さん、こんにちは。私は、22 世紀のための友情計画実行委員会代表の桜井萌恵と申します。プレゼンテーションをさせていただきます。よろしくお願いいたします。

私たちは、市民グループ、湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会の活動の中で、あるときは参加者、あるときはボランティアで活動してきた若者から成っています。ここから、私たち団体名を「22 世紀」、私たちをリードする団体を「湘南とアジア」と略します。私たちの会の名前は、22 世紀を生きる人たちと友情を培おうということから生まれました。私たちは、湘南とアジアがやってきたことを引き継ぐことから活動を始めていこうと思っております。

まず、今までの活動をパワーポイントで紹介いたします。

湘南とアジアの活動はここからスタートしました。写真は、阪神・淡路大震災 1 年半後に、中学生を中心にして行った、仮設住宅に残されたお年寄り励まし隊の様子です。仮設住宅でお年寄りの自殺者がふえましたため、それを若い力で防ごうと活動をいたしました。

この写真は、仮設住宅に残されたお年寄りへのプレゼント、50 羽の鶴です。

こちらは全校生徒で折り、吹奏楽部の生徒が糸を通したものです。

こちらの写真は、東日本大震災後の気仙沼、こちらも仮設住宅お年寄り励まし隊の様子です。雨の中、集会所での交流会の参加を一軒一軒呼びかける小中学生です。

この写真は、「神戸・広島子ども達の旅」というプログラムで、平和慰霊碑の前で撮ったものです。このときは 50 人の参加でした。この震災の神戸、被爆地の広島を巡る旅では、資料館の見学をしたり、被災者、被爆者のお話を伺ったりしました。私たち 22 世紀の役割は、まずこの旅と、その勉強会を自分たちで成功させることです。

ここで、その旅の詳細について、和賀井先生より説明させていただきます。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) 彼女がいろいろボランティアで来てくれたんで

すが、今までやってきた企画を立てるところとかわかってないので、ちょっと説明させていただきます。

なぜここに申し込んだかという、我々、広島の派遣みたいなことをやっています。藤沢市では長崎派遣とかあるんですが、いろいろ違いがあるんですが、我々の団体は選抜をしない、来たい子は全員行けますよということです。人数が多くなってしまったらどうするんだということですが、4年生を来年に回してもらおうとか、2回目をやるとか、そういう形で対応していきたいと思っています。

なぜお金をお願いしたいかという、行くときに、子どもたちの面倒を見る高校生とか大学生のボランティアを呼びます。ただ、お金がないので、彼らは自分のお金で半分参加費を出して、あと足りない部分は子どもに上乘せしてやっています。我々実行委員も大人と同じだけ払うんですが、ボランティアに行った子たちにお金を払わせてというところがちょっと気になるので、その部分を埋めてもらえないかということです。

選抜をしないということで、いろいろな参加者の姿が見えます。ある子は小学校5年生で来ましたが、「和賀井さんさ、僕は長崎派遣でもらって、母ちゃんに、いいって言って」と言ったら、「おまえみたいなばか、作文を書いて選ばれるはずねえだろう。広島へ行ってこい」と言われた参加者もいます。

あるいは、説明会のときに説明が終わって、お母さんが直接聞きに来ました。「うちの子は3年生から学校に行っていないんですけど、何かきっかけがつかめたら」と言うお母さんもいます。あるいは、「うちの子はいじめられているみたいなので、修学旅行には行きたくないと言っているんですが、去年参加した子のお母さんが、とても楽しかったよと言ったので、娘を誘ったら、『Kさんと一緒なら行ってもいい』ということで、一緒に参加しました」、こういう子もいます。

一番重かったのは脳腫瘍を患っている子で、脳腫瘍自体は放射線治療でとまっているんですけども、目があまりよく見えなくて、髪の毛が抜けちゃって帽子をかぶっている。お母さんもぜひ一緒に行かせてほしいという子もいました。

僕は藤沢市の平和の輪をひろげる実行委員の一人でありますから、藤沢の長崎派遣というのはよくわかりますが、我々のところではこういう子たちも参加できる。見ていると、お母さんに聞いた子たち以外にも、この子大丈夫かなという子がいますけれども、そういう子たちも一緒に行って、楽しんでもらおうというように思います。

(22世紀のための友情計画実行委員会) 続いて、湘南とアジア、22世紀の活動の大きな



柱として、国際交流、平和がありますので、こちらの説明をさせていただきます。

まず、国際交流です。写真はインドネシアで日本語を学んでいる学生さんと、藤沢の中学生の交流の様子です。2つの国の若者がそれぞれの国のすばらしさを知る活動と考えます。

中心が私なんですけど、私はよく、アジアの若者の夢のディズニーランドのアテンドをしました。

こちらにもインドネシアの学生さんとの交流の様子です。アジアの若者にも戦争の事実を伝えようということで、平和の交流が3年前に始められました。最初は、インドネシアの4名の学生と先生が2週間日本に招聘され、広島でフィールドワークなどを行いました。こちらは会場となった大学の一つです。日本人の青年もアジアに出て、インドネシアの日本語学科の大学生を前に、広島、長崎を訪れたときの話をしました。

こちらがジャカルタのスラムの貧しい子どもたちに文房具を送るためのポシェットをつくってくれた中学生。

文房具の入ったポシェットをNPO事務局に届ける高校生の様子です。

文房具をもらったスラムの子どもたち。

ストリートチルドレンと日本の大学生の写真です。

(坂井部会長) 時間になりましたので、発表は終わらせてください。これから質問をさせていただきます。委員の皆さん、質問いかがでしょうか。

(間山委員) 昨年参加された方の人数とか。昨年やられているんですね。

(22世紀のための友情計画実行委員会) 去年はやってないです。

(間山委員) やられたときの参加人数と、藤沢市内の中高生とか、どのくらいの人数割合で参加したのか、教えていただけるとありがたいんですが。

(22世紀のための友情計画実行委員会) チラシを中学校、小学校に配るんですが、来るのはほとんど小学校です。中学校になると、部活とか始まっちゃって来ない。人数は全員オーケーですので、30人行ったときもあるし、50人行ったときもある。

(間山委員) 学校のエリアと言うと、固まっていますか。

(22世紀のための友情計画実行委員会) 結局、今まで配るのは知り合いの先生がいるところだったんです。全市に置いちゃうと、物すごい数が集まるという気がして。

(細沼委員) 去年は実施しなかったということで、ことしもコロナで、各小学校、中学校、修学旅行がどうなるんだろうという状態でありましてけれども、実施の年間の予定を見さ

せていただくと、研修ですとか宿泊を含めた現地の研修が入っていますが、この辺、コロナ対策としてどうお考えでしょうか。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) 年度の一番後ろに持ってきました。そこでもコロナがすごい状況だったら、やめざるを得ないかなという気がします。やったころは、もうおさまるのかなと思っていたところがあるんですが、またぶり返しちゃっているのちょっとわからないですけども、状況的にそぐわないということであればやめるしかないかなと思います。

(細沼委員) この申請が通った場合に、実施しないということであれば、予算はどのような使い道というか、そのほかのことを考えていらっしゃいますでしょうか。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) はっきり言って考えてないんですけども、その場の状況によって考えますが、10 万をどうやって使っていいのか、許されるのかわからないんですけども、例えば被爆者の人をこちらに呼んで学校で講演とか、それが許されるなら、そういう形もとれると思うんですね。現に9月には1人被爆者を呼んで、湘南とアジアと22世紀で4つの学校を回ります。

(山岡委員) このボランティアの高校生、大学生の参加費をミライカナエルの補助金で賄うということなんですが、このミライカナエル事業が終わった後はどうしていくか、そういう見通しについて教えていただきたい。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) ほかを探します。

(山岡委員) ほかの助成金とか補助金を探すということですね。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) ダメだったら前に戻って、ボランティア半額、子どもに3000円か4000円上乗せするという形にするしかないです。

(坂井部会長) 私から1点伺います。小学生、中学生のお子さんたちに旅行してもらうわけなんですけれども、万が一旅行中に事故があったり、何かあったときの対応についてはどのように考えていらっしゃるか。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) 保険は掛けますが、高校生、大学生というのは、それを何とか大きくならないように呼んでいるわけですね。子どもたちの中に入っているわけです。そうしても事故が起こったら、どうしますかね。中学校とか修学旅行で行ったときに、それで不測の事故が起きたときどうするんだろう。ちょっとわからないですね。

(坂井部会長) 旅行の保険には入るということですよ。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) 入ります。

(林委員) 和賀井さんの活動を、そこに参加していた学生ボランティアが次の団体をつくって進めていくというのはすごくいいなと思っています。ただ、委員長が先ほど質問したように、今後のことは必ず毎年聞かれちゃうと思うんですね。そんな中で学生を中心とした、あるいは若い人たちの団体で、今後この団体を自分たちで回るようにしようとか、どんな団体にしようかなという考えがありましたら、教えていただければと思います。

(22 世紀のための友情計画実行委員会) 今後の団体をどうしていきたいかということですね。インドネシアの人々と活動しているんですけども、日本の被災地や被爆地などに一緒に訪れて、平和の場を一緒に築いていくということが目標ではあるんですが、それをするためにはディズニーランドに一緒に行ったりとか、宿泊施設に一緒に泊まるとか、あとはふだんの交流を大事にするということが大切なので、まずは友情づくりをベースにやっていって、平和の輪を広げていく活動をインドネシアの学生とともにやっていけたらなと思っています。

(坂井部会長) 時間になりましたので、質問は以上とさせていただきます。どうもお疲れさまでした。

(団体入れ替え)

## ⑥ Rankup

(坂井部会長) 司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、Rankup さん、「貧困世帯への支援事業」について発表をお願いします。

(Rankup) 皆さん、こんにちは。Rankup の佐々木俊と申します。本日はよろしくお願いいたします。

現在コロナの影響もあり、ますます貧困世帯の割合が増加すると予測されています。そこで私たちは、貧困世帯の支援事業として **Each Other** という活動を行っていきたいと思います。

まず、私たちの活動内容について説明させていただきます。私たちは現在、2つの柱を軸に活動しています。1つ目が子どもへの教育、2つ目が貧困世帯への支援です。

最初に子どもの教育についてですが、現在 **Local Lesson** という、地域の方々が自身

の得意分野、主に学校では教えることが難しいことを子どもに教えるプログラムを実施しています。このイベントを通じて、子どもたちの視野を広げることを目的としています。

今映し出されている写真は、以前、私たちが行ったボードゲームのイベントとなっております。このイベントを通じて、子どもたちの視野や思考力などの知育を育むことを目的としたプログラムとなっております。

続いては、貧困世帯の支援についてです。現在、私たちは農家からいただいた野菜を長後にあるこども食堂へ運ぶ活動や、藤沢にある児童養護施設などでボランティア活動を行っております。

今映し出されている写真は、実際に子どもたちが畑を訪れ、サツマイモを栽培している様子です。

今回のこの **Each Other** なのですが、ちょうどこの2つの柱の軸の要素を織り込んだ事業内容となっております。

まず、当社が野菜を栽培し、その野菜を販売いたします。そして、売り上げの一部で食料などの物資を購入いたします。それを貧困世帯へ提供するという流れになっております。将来的には、貧困を問わず、子どもたちにも農業体験の一環として、私たちの野菜栽培のお手伝いをしてもらいます。私は、畑は子どもたちが学ぶ場として最適ではないかと思っております。

続いて、詳細です。まず、1つ目に野菜を販売する絆市の開催。そして、2つ目は一般の方々から物資などを寄付していただく絆 BOX の設置。この2つを通じて貧困世帯への支援を行っていきたいと考えております。

まず、絆市の開催についてです。まず、当社が野菜を栽培するという契約を地主さんと結びます。そして、当社が栽培した野菜を月2回、絆市という市（いち）を開催し、販売いたします。その売上金の一部で食料などの物資を購入し、登録団体や貧困世帯に提供するという流れになっております。

続いて、この登録団体についてです。例えば、こども食堂やフードバンクなどの貧困世帯の支援を行っている団体などが対象となります。最初に、これらの団体が当社に登録団体の申請を行ってもらいます。そして申請がおりれば、当社が先ほど購入した物資を登録団体に提供いたします。その後、登録団体から貧困世帯へと、その物資が提供されるという流れになっております。

続いて、絆 BOX についてです。絆 BOX とは、地域の方々が食料などの物資を集めるためのものです。そこで集めた物資に関しては、2週間に一度、私たちがその物資を回収し、登録団体や貧困世帯に分配するという流れになっております。

そして、この Each Other のもたらす効果ですが、私たちは貧困世帯の方々に物資を提供できるので、貧困世帯の支援につながると考えております。

そして、一般の世帯については2つの効果があると思っております。まず1つ目は、比較的安易な価格で有機野菜を提供できること、そして地域貢献の機会を提供できるということです。

この機会に関しましては3つ効果があります。まず、1つ目は、私たちの野菜を購入するということは募金的要素があり、そして絆 BOX に物資を提供することは寄付的要素があります。そして、最後に、私たちの野菜栽培の支援も可能です。そのことは間接的ではありますが、貧困世帯の支援につながると考えております。

そして、3年後のビジョンとしましては、貧困世帯の方々は物資をもらうだけではなく、何かの対価として物資をもらうべきだと私たちは考えております。このような GIVE & TAKE の関係を築くことが、今後の社会にとっては大切かなと思っております。

続いては、将来の展望についてです。まず、1年目の私たちの目標。絆市の売り上げの年間の目標は18万円と設定いたします。月に2度、絆市を開催すると想定し、1回の絆市で7500円程度の売り上げがあれば、この数値が達成できると思います。この7500円の売り上げを達成するためには、今映し出されている野菜を販売すれば可能となっております。

続いて、寄付する物資に関しては年間6万円から8万円。これは売上金額の3割か4割程度を見込んでおります。そして、絆 BOX の設置店に関しては、10団体を目標に取り組んでいきたいと思っております。

続いては、2年目の目標です。絆市の年間の売上目標が35万円。これは先ほどの1年目と比べて2倍の数値になっております。この数値を達成するためには、以下のような取り組みを行う予定です。

例えば、1回の開催で複数の会場での販売。または、先ほど2回とご説明させていただきましたが、これを3回にふやすなどの取り組みによってこの数値を達成していきたいと思っております。

続いては、寄付する物資に関しては、先ほどと同じように3割から4割程度なので、年間12万円から16万円。そして、絆BOXの設置団体に関しては、30団体を目標に頑張っていきたいと思います。

続いては、3年目の目標です。これも2年目と同じような取り組みを行うことによって、以下のような目標金額を達成していきたいと思います。

まず、絆市の売上目標が年間50万円。寄付する物資に関しては年間18万円から20万円。最後の絆BOX設置店に関しては、50団体を目標に取り組んでいきたいと思います。

最後に、補助金の主な使い道については、以下のような項目に充てていきたいと思います。

最後になりますが、私たち Rankup はまだまだ未熟な団体ではありますが、貧困支援の新しいモデルとして、今後取り組んでいきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

(坂井部会長) これから少し質問させていただきますので、よろしくお願ひします。質問のある委員の方、お願ひします。

(山岡委員) 農地で野菜を栽培させてもらうような契約を地主さんとするんだということなんですが、そこは既に場所が決まっています、めどが立っているのかということが1点。

あと、絆BOXというのをスーパーに置かせていただくということですが、1カ所でも、どうぞ置いてくださいと言っているところがあるとか、そういう状況について教えてください。

(Rankup) 1点目に関しては、現在、1人の地主さんではありますが、100平方メートルほどで野菜を栽培しています。秋野菜に向けて、あと100平方メートルほど借りられるというお話なので、少しばかりですが、めどは立っております。

2点目に関しては、自然食品を扱っているお店とちょっとつながりを持つことができたので、そこでは前向きに検討して下さるというお話を伺いました。

(山岡委員) 今、既に佐々木さんご自身がお野菜を栽培されているんですね。それをどこかで販売されているんですか。

(Rankup) 以前に、過去2回ほど販売いたしました。

(山岡委員) ここに書いてあるようなお値段で大体売れたのですか。

(Rankup) そうですね。ただ、貧困世帯への支援となると、数としてはまだまだ少ない

ので、今後はもっとふやしていく予定です。

(坂井部会長) ちょっと私からお伺いします。農業のノウハウはお持ちだということでしょうか。

(Rankup) ことしの1月の終わりぐらいから週に2～3回、実際、農家さんを訪れ、農業の知識を身につけているところです。現在、自分たちの団体のアドバイザーでもありませんが、いろいろと意見をもらっているところです。

(坂井部会長) 売れたということですから、お金を出して買ってもらうに足るものができたということだろうとは思いますが、その辺は大丈夫ですね。

(Rankup) 大丈夫だと思います。

(坂井部会長) それから、2つ目として、先ほど土地代がたしか10万円あったと思うんですが、それは農家さんに支払うということになる。

(Rankup) 委託契約というか、野菜栽培として土地を使うので、そのお金に充てると思っています。

(坂井部会長) あともう1点だけ。絆BOXですが、そういうものが広がるのはいいことだと思うんですが、匿名の方がここにモノを入れるわけですよ。誰が入れたということとはわからないわけですよ。

(Rankup) うちに、先ほど出てきた登録団体というものがあるんですが、実際に自分たちはまだホームページを作成する段階なんですけど、その登録団体様の情報等を入れますので、直接提供してくださる地域の方々が、この団体に提供したいというものを書いていただけると……。

(坂井部会長) 行き先についてはそういうことですが、そこに提供してくれる人というのは、誰でも提供できるわけですよ。

(Rankup) そうですね。

(坂井部会長) そこで念のためなんですけど、事故の防止ですね。つまり、何か変なものが入れられちゃうと事故になることもあり得ますよね。その辺のチェックというのはどうですか。

(Rankup) 寄付できるもの、できないものに関しては詳細等を伝えますので、それ以降、私たちが回収したときにチェックする予定です。

(坂井部会長) 例えば賞味期限が残っているかどうかとか、どこか細工されていないかどうか、そういうことですよ。

(Rankup) はい。ちゃんと確認する予定です。

(樋口委員) 貧困世帯と書かれていますけれども、貧困世帯といっても幅が広く、対象年齢層ですとか、佐々木さんがおっしゃっている貧困世帯というのは、子どもさんとか、ひとり親家庭であるとか、どの辺を絞ってターゲットとして思っているところですか。

(Rankup) 主に小さいお子さんとかがいて、低所得者を対象として取り組んでいきたいと思っています。

(樋口委員) 子育て世代ということですか。

(Rankup) そうですね。

(坂井部会長) もう1点だけ。先ほど3年間の計画で、売り上げも伸びていくという計画をお示しいただきましたけれども、今回の助成金が単年度の助成金なわけですよね。次年度以降は助成金がなくても、先ほどの計画で進んでいけば持続可能であるという見方でよろしいんですか。

(Rankup) ただ、私の考えとしましては、これ一本だけで自分の生活となると、この金額には到底難しいと思っていますので、自分のプランとしましては、3年後は市と協働で不耕作地等を使い、4年、5年通して一本立ちしていきたいと思います。今回と来年度は補助金を使って、流れというか仕組みを構築していきたいと考えております。

(坂井部会長) 先の話でしようけど、市と協働するということになるのと、どういう経費が浮いてくることになるんですか。経費というか、要するに持続可能な形になるということですよね。それはどうしてそういうことになるのか、継続できるのか。

(Rankup) 市のほうではまだまだ不耕作地が点在していると思いますので、そこでのかかる費用等があると思います。そこを見込んでおります。

(坂井部会長) 例えば、市が土地を借りてくれるので土地代がかからなくなるとか、端的に言うとそういうことですか。

(Rankup) 基本的に農地というのは、農家の方々が使える土地だと思っていますので、私は農家ではないので、どのぐらいのお金で市のほうから援助されるか見当がついておらないので、無償かもしれないですし、半々かもしれないですし、それは市と協働することが決まってから、多分決まるかなと思っています。

(坂井部会長) ほかの委員の皆さんはいかがでしょう。——よろしいですか。

それでは質問はこれで終わります。お疲れさまでした。

(坂井部会長) 以上でスタート支援コースのプレゼンは終了となります。



ここで休憩としたいと思います。事務局のほうからご連絡、お願いいたします。  
(事務局) では、これから休憩に入ります。再開は、会場の時計で午後3時といたします。  
それまでにお席にお戻りください。よろしくお願いいたします。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後2時50分 休憩

午後3時 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

～ 第2部 ～

(坂井部会長) それでは、3時になりましたので、ステップアップ支援コースの公開プレゼンテーションに移りたいと思います。

まず特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画さんのご案内をお願いいたします。

①特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画

(坂井部会長) 司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画さん、「10代と本音トーク☆性についての出前授業」について発表をお願いいたします。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) よろしく申し上げます。

湘南まぜこぜ計画では、寺子屋ハウスとあって、子どもの居場所づくりについて2016年から朝日町のほうで行って来ました。2016年なので、5年前になるのですが、そこに来ていた子どもたちが、今、中学生や高校生になってきています。そんな子どもたちの話す内容もやはり変化してきていて、だんだんと性について興味を示す子もすごくふえてきました。

その子どもたちと話す中で、性について、もう少しちゃんとした情報を知りたい、正しく勉強したいという声が上がってきました。そういうことで、私たちのほうで子どもたちと一緒に、では、10代を相手に性について長年講演を行っている産婦人科医の遠見才希子さんという方に講演を行っていただくという話になっていきます。

実際に講演を行う前にさまざまな本を読ませていただいたのですけれども、やはりそ

こから、私たち大人が性について正しく学んできていなかったなということを改めて実感させられることになりました。

ことしの2月、寺子屋ハウスに来ていた中学3年生が、卒業間近のときに、中学校の保健の授業で性教育について学んだということで少し話をしてくれました。

そのとき中学校3年生が使用していた教科書なんですけれども、やはり性に関する関心は中高生でさらに高くなってきている。ですが、情報のほうもすごくさまざまなどころから得られるようになってきていて、子どもたちの中でも情報がかなりあふれているということが教科書には載っています。

ただ、中身を見ていくと、性感染症については多く取り上げられているのですが、性行為についてだったり、避妊の具体的な方法、また、性的同意という言葉についてはほとんど載っておらず、学習指導要領の対象になっていないということがすごく明らかになっているかなと思います。

これらの彼らの話も踏まえて、まずはやはり産婦人科医の遠見さんの講演を聞き、10代の若者と一緒にディスカッションを行っていこうということで、4月に講演会を企画し、行うことになりました。

なぜ遠見さんに話していただくことになったのかというと、遠見さんは産婦人科医でもありますし、大学生のころからさまざまな場所で講演を行ってきています。その中で、大人目線で話をするのではなくて、子どもの目線に立って、わかりやすく話をしてくださる方でした。また、遠見さんの考えとして、性について学ぶのは子どもたちの権利だという考えがあり、その考えにも私たちもすごく共感をして、講演を依頼することになりました。

この講演後に、10代の参加者たちからは、この話を友達にも伝えたいとか、同世代の人にも話していきたいという思いを持ってくれる子がすごくたくさんいてくれました。あとは、遠見さんのほうから、これを10代の皆さんが10代の方にぜひ伝えてほしいという思いもあったので、では、自分たちで実際に、中高生が中高生のために性教育の教材づくりをしていこうということで、今回の企画がスタートしています。

実際にどんな参加者が制作にかかわっているのかという話を少ししようかなと思うのですが、実際に中高生も今この制作にかかわっております。

その中にいる高校生ですが、彼女はもともと学校で受けていた性教育が足りないのではないかということを感じていて、みずから学校医に手紙を出し、義務教育であ

る中学校とか高校は、正しく性教育を学ぶラストチャンスだから、どうにかしてそういう機会をつくってほしい。そういうことを強く語っている高校生もいます。こうやって意識の高い10代と一緒に制作をしています。

ほかにも中高生だけではなくて、小学校教諭としてもともと20年以上勤務されていて、教育委員会でも活躍された方も一緒に行っています。この方もやはり中高生に正しい性教育が行き渡っていないこととか、正しく受けてもらいたいと思っていて、教材づくりに参加をしてくださっています。今回は元教員という目線だけでなく、グラフィックレコーダーという形でも参加をしてくださっています。

それ以外にもさまざまな大人たちも加わって行っています。実際に中学校、高校で教材として使っていきたいということで、現役の中学校教諭の方から教材のアドバイスをいただいたり、あとは産後ケアを仕事としているスポーツトレーナーの方、助産師さんなど、専門的な知識を持った大人にもたくさん教材づくりに参加していただいております。こういった人たちが、企画を行っている中高生とともに、これから出前授業を行っていければと思っております。

今、途中ですが、少し教材づくりが始まったので、実際にどのような形で行っていくのか見ていただければと思います。このような形でスライドを見てもらいながら考えていきたいと思っております。

今考えているのは、やはり中学生らしいのですが、SNSを利用した形で、動画っぽく、いろいろな性的同意のシチュエーションとかを流して行って、あなたなら実際こういうとき、どうしますかという形で質問を投げかけて、自分事となるように進めていきたいと思っております。

このように授業の中ではアンケートをとったりしながら進めていきたいと思っております。

コンテンツの内容については、中高生のそういう若い情報であったり、どういうものが彼らの心に響くのかというのは、中高生が中心に考えていきたいと思っております。

(坂井部会長) 時間になりましたので、発表はそこまでにしてください。

これから質問をさせていただきますので、よろしくお願ひします。質問のある委員の方、お願ひします。

(山岡委員) 今こういった教材とかを中高生などが中心になってつくられているということですけども、予算を見ると、動画コンテンツ制作で業務委託費というのが出ている

のですが、これはどういうものか。今の教材制作のこととはまた別という理解でよろしいのですか。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) DVDという形に落とし込んで、しかも授業時間が45分であったり、50分だったという大変限られた中で、かつ、やりっ放しではなく、教材として活用するには、かなりブラッシュアップされたものでないと、子どもたちにとっても大変飽きがきやすい課題になってしまうといけないので、そこは編集を含めて、プロにお任せをしたほうが、質がかなり求められるかなというふうには考えています。

ただ、どの委託会社というか、制作編集会社でもいいというわけではなくて、一応この趣旨を理解いただいて、実際に先ほどの遠見さんの講演、また、子どもたちとのミーティングにも参加をしてくださって、そこに関しては費用負担なしで、理解をして制作と一緒に取り組んでくれるという会社にめぐり会いました。ディスカッションも含めてそこに積極的にかかわってもらって、質を担保していきたいということから、外部委託ということを選択してきました。

(山岡委員) そうしますと、動画だけど、そのコンテンツとか素材みたいなものは、こうやって皆さんでつくっていくし、委託といっても一緒につくる、そんなような理解でよろしいですか。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) そういうことです。

(坂井部会長) 私からお伺いしますが、学校現場で出前授業ということなんですけれども、教育委員会ですとか学校の理解は得られる見通しなんでしょうか。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) 実は遠見さんをお招きするという話は、最初、2月に予定をして、実際、SNS上で2月の予定を上げたところ、まず反応があったのは、学校の先生たちからたくさん問い合わせをいただきました。やはり今の子どもたちに答えていくような内容で遠見さんが長年ずっとやってきたことを、多くの学校現場の先生たちは理解していますし、そういうものが子どもたちに提供されるべきだという考えが、今、学校現場にも切実にあるということを感じました。

先ほどの説明にありましたように、その中から、制作にもかかわりたいという先生や養護教諭の人たち、わずかこの企画を出しただけで、かなりの先生たちからのリアクションがあって、そういうところから、まずは手始めに試写会ができるのではないかといいふうに見込んで考えております。

(坂井部会長) 試写会というのはどのくらいの規模でやるのですか。学校へ行って、教室なのか、学年なのか。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) そこはもう状況に応じてと思っています。それこそ学校的には、すぐにはまだなかなか理解ができないけれども、うちの教室で、理解ある先生のもとで、教室単位でやるということもあるでしょうし、学校単位で、体育館で、そういうのをやりたいという話があればまた考える。あと、コロナの関係もあるので、どの程度の規模になるか。

ディスカッションということをやったり1つ意図していますので、それに見合う形で、さまざま試行錯誤はしばらくするかと思いますが、いろいろなパターンでやっていきたいと考えています。

(坂井部会長) これは私立の学校も対象と考えているのですか。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) できればそうしたいです。ただ、今の段階では、まず手始めに、つながってきた公立学校の中学校です。あと、企画の段階では、市内の県立高校の生徒さんたち、また先生も協力してくれていますので、高校では、指導要領との関係でいっても、比較的問題なく開催ができると思っています。まず、そういう実績を見ながら、私立の学校の皆さんにもオファーといいますか、こういうのをやりませんかという呼びかけはぜひしていきたいと考えています。

(林委員) 何か教材と言われると、どうしても専門知識とかが必要なのかなとちょっと思うところがあるのですけれども、10代の皆さんが中心となつてつくるということについて、協力してくださる先生もいらっしゃるということなので、そういう方たちに専門知識をインタビューして、そういうのを盛り込んでいくというものなのか、あるいは、私が思っているよりももうちょっとライトに、この分野に興味を持てるような教材になっていくのか、どんな教材なのかを教えていただければと思います。

(特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画) その深い知識や、また、今プレゼンでご紹介したことの重点には、例えば性的な同意とか、避妊の具体的な方法ということがありましたけれども、それ以外にもさまざまな課題があると思っています。ただ、あれもこれもやるのが、授業の教材としては成立しにくいという難しい側面もありますので、今申し上げたような部分を重点に、一旦興味を持っていただければ、そこからオプションとして、副教材とか、また若い皆さんのほうがSNSとかを通じて、そこからアクセスできるような、そういうホームページの提供などは考えていきたいというふうには思っ

います。

具体的な自分事として抱えている課題や相談事ということがありましても、それこそ遠見さんはいろいろな意味でバックアップしてくださると思っています。遠見さんだけでなく、専門家の方々にもいろいろ対応や協力を仰ごうという体制でいきたいと思っています。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、質問は以上とさせていただきます。お疲れさまでした。

(団体入れ替え)

## ②特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行

(坂井部会長) 司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いいたします。

それでは、特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行さん、「昼食／夜食のために立ち寄れる場の提供事業」について発表をお願いします。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) こんにちは。わいわい善行の栗田と申します。

今回、団体名称としましては、特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行ということで、我々一般的にわいわい善行という形になっております。

応募コースはステップアップ支援コースです。

今回の事業名称としましては「昼食／夜食のために立ち寄れる場の提供事業」ということとなります。

それでは、進めていきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

きょうはこの順番で話を進めていきます。

まずは「団体の概要」、「コロナの影響」、「提案事業の概要」、「事業によって期待できる効果」、「何年か先の夢」、また、今回いろいろな委員の方々から何点か質問をいただきましたので、できる限り回答していきたいと思っております。

まず「団体の概要」になります。我々わいわい善行というくらいですから、善行の駅前を拠点として活動しています。わいわい善行は、介護保険の対象にならない、または各種制度から漏れている高齢者が、地域で孤立しないような場を提供している団体です。したがって、比較的元気で、自分で歩いていける、そういった方々を対象にしている団

体になります。主にこのような活動をしています。

今回、コロナがありまして、コロナの影響が非常に大きかったです。大きなところで、活動の一環として食事の提供を行っていたのですが、撤退を余儀なくされました。従来みんなで楽しく食事をしていたのですが、いろいろな要請とかがあって、昼食の中断を余儀なくされて、今はこのような比較的閑散とした状態が続いております。

今回、食事の提供ができなかったということで、やはり利用者が減少しました。それから、収入の減少で規模を縮小していきました。こういったところで、ボランティアの方々が出られなくなりました。一回休業ということで、再開できなくなってしまったというのが現状でございます。

そういった背景がありまして事業を提案させていただきました。それで今回に至っております。

食事提供への要望はすごく多いです。とはいうものの、我々、撤退するときに、ほぼ全て手放しております。手放しているというのは、お皿というのではなくて、大きな鍋とか、つくる道具、こういったものをほぼ全て手放しました。手放していたんだけど、こんなに要望が多いんだというのでちょっとびっくりしています。そういうことで、今ゼロからのスタートになります。

とはいうものの、コロナの対策はすごく重要で、特に高齢者が相手になっていまして、一回かかったら、すごく重症化するということもありましたので、やはりやらなければいけない。

今、実は街頭でこういったパンを販売しています。これは近くの障がい者の施設のほうでつくっているパンを街頭で売っていただいております。とはいうものの、やはりパンなので、夜食、昼食にはならないということで、何とか頑張っていきたい。

場所は、従来、認知症のカフェとして使用していた場所を使えるかなと思っております。ここを食事の場として、昼夜食べられるような場所を提供したいというのがこの提案になります。

開始時期です。「事業の概要（始めるタイミング）」ですが、もともと8月からいけるかなと計画段階では思っておりました。しかし、昨今のコロナの状況を考えると、非常に厳しいと我々思っているところでございます。そういうことで今期は準備に充てる方向でいきたいと思っています。

先ほどご説明しましたとおり、準備といっても、全部手放しています。スタッフ、機

材、そういったものがなくなっておりますので、もう一度そういったものを全て、ゼロからスタートで、こういう日程でいきたいと思っております。

来期に何とかスタートを考えておりますけれども、コロナがいつまでこうなるかわからないので、その辺を見ながらやっていくしかないなと思います。

「事業によって期待できる効果」です。今回食事づくりということで、食べるということです。これは藤沢市さんの資料から抜粋したのですが、高齢者は当然比率がふえております。4人に1人が高齢者です。そのうち75歳以上もどんどんふえているということで、高齢者はどんどんふえています。

そうなんですけれども、介護保険など使わずに、一人で身の回りができる高齢者も当然ふえていくこととなります。彼らが日常的に集まれて、少しだけ高級感のある場所、こういったものがすごく大切だと思っております。そういう場所をつくるのが我々の目的になっております。こういった人たち、なおかつ、比較的自分で動けるような人たち、具体的に言えばベローチェに行っているような人たち、そういった人たちが、御飯が食べられる、そんな場所が提供できれば、みんな非常に喜ぶのかなと思っております。

そういったところで、今回私たちの「何年か先の夢」を考えてみました。

文章的には、わいわい善行を食事と各種事業を提供できる拠点にして、自治体さんと事業者さんとを結びつけるコネクターの役割を担う場所として活動を続けていきたいと思っております。

当然我々だけで何かできるわけでもない。先ほどのグラフのとおり高齢者がどんどんふえていくので、自治体さんも持ち出しがどんどん多くなっていきます。それを全部自治体さんだけで担うのは難しいということで、我々市民も協力しなければいけない。

当然事業者さんも、先ほどのパンみたいな感じですけども、こういった人たちとコネクターをするということで、わいわい善行独自でやるのではなくて、みんなを巻き込んで、どんどんふえ続ける高齢者、こういった方々を、できるだけ支援していきたい。支援というか、みんなで行ってきたいというのが私たちの何年か先の夢で、こういったものを提供し続けていきたいと考えています。

以上が今回のプレゼンになります。以前いただいた質問の回答について……。

(坂井部会長) 発表はそこまでにしてください。

これから質問させていただきますので、よろしくお願ひします。では、委員の皆さん、質問をよろしくお願ひします。



(細沼委員) この事業は善行地区のみの方を対象にするというふうに理解してよろしいですか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) 我々としては、そうは思っていないのですが、現実的には多分そういう形になっていくと思います。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) 現在も通いの場の事業を継続しているのですが、今、逗子、茅ヶ崎から、10名ぐらい見えています。

(細沼委員) そうすると、別に道路に線を引いて壁があるわけではないので、例えば善行の近隣の方が気軽に寄るみたいな形に今後はお考えになるのか。それとも、それは他市からも来ているので、受け入れるという形で考えていらっしゃるのですか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) 基本的にはイエスです。全然そういう線をつけているつもりはありません。やはり社会的な区域というのがあると思うのですが、そこで我々は区切っているのが、行政的な区域ではありません。

(山岡委員) 先ほどコロナがなかなかおさまらないので、計画を少し変更しようというスライドがあったと思うのです。今こちらにいただいている資料だと、9月に「週3日程度開店」と書いてあるのですが、これが変更になるということですか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) そうということですね。

答えはイエスです。計画でこうなっていたものを、少しずつすすしかないと考えています。現実的に今始めても、まずボランティアの方が来られない。それから、先ほど写真を見ていただいたとおり、やはり人が来られない。こういった状況なので、これでは現実的ではないなというので、資料を提出した後に、もう一度考え直して、日程を組みかえました。

(山岡委員) 右側に映っているのは、2022年4月からのスケジュールですね。そうすると、2021年8月以降だと、どんな動きになっていくのでしょうか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) こちらになります。

スタッフの教育と機材の収集、コロナの対策、これに充てたいと思っています。

(坂井部会長) 事業計画をコロナ対応ということで見直されたということなんですけれども、それによって事前に申請いただいている収支予算書のほうには何か影響はあるのでしょうか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) 収支計画をつくっているときからコロナの影響というのがいまひとつよくわからなかったのです。なので、収支予

算書の中にはコロナの事業収益を入れなかったのです。そういう迷いがあったら入れてないので、答えはノーです。何も変わりません。

(坂井部会長) 1点、団体の運営についてお伺いしたいのですが、団体の会員というのは今何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) 今130名おります。会員というのは入会金をいただいているのですね。それで強制的ではないもので、どうしても企画に参加したいという方は、利用者という形で入れています。あくまで希望者に会員になっていただいている。今130名ぐらいの会員がおります。

(坂井部会長) そうすると、団体概要書というのをいただいている、ここには正会員数1109人と書いてあるんですけども、これは意味が違うということですね。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) その当時から若干変わっているんですけども、正会員というものと準会員と今言っているのですが、そこが少しあやふやで、会費をちゃんと払っていただいている方、そうではなくてその事業だけに参加される方をまとめた数を入れてあります。それを分ける必要があるということで、今130という数字が出てきたことになります。

(坂井部会長) わかりました。要するに、会の運営に携わる、総会に出席する人は130名である、そういうことですか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) はい。ちょっとわかりにくかったですね。すみません。

(樋口委員) 昼食と夕食、1食幾らぐらいで想定して復活させる予定ですか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) 今、私の中ではワンコインでいきたいなと思っています。

(樋口委員) 夕飯も。両方同額ですか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) はい。ベローチェに皆さんよく行かれますよね。ベローチェは何でいいのかなと思うと、大体500円でコーヒーとパンが食べられるんですよ。500円はやはり一つの大きなポイントで、500円だったら出せるという気がしています。

(樋口委員) 以前も500円でしたか。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) もうちょっと高かったです。

(樋口委員) もうちょっと高かったですよね。今度下げている。

(特定非営利活動法人地域市民みんなで作るわいわい善行) そうです。昼も夜もという形にして、少し安くしたいなと思っています。以前は事業参加も含めてという値段にしていたけれども、今回は食事だけという形で、食事の提案をさせていただいています。(坂井部会長) ほかにいかがでしょうか。——よろしいですか。  
それでは質問は以上とさせていただきます。どうもお疲れさまでした。

(団体入れ替え)

### ③障がいのアナ

(坂井部会長) 司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いします。

それでは、障がいのアナさん、『障がいのアナ』web サイト改革について発表をお願いします。

(障がいのアナ) 障がいのアナ代表の小川優と申します。そして副代表の重野友希です。きょうはよろしくお願いいたします。

では、始めさせていただきます。

私たちの団体は、スタート支援のほうでも昨年度お世話になりまして、どうもありがとうございました。

団体の活動をしている内容としては、藤沢市を中心に、障がい・福祉の情報を発信する web メディアとなっています。「社会の壁にアナを開ける」をモットーに、なぜか分かれてしまっている世界をつなげていきたいと考えています。情報を伝えることで、一人一人の価値観をやわらかくし、お互いを尊重し合い、自分自身を大切にできる優しい社会をつくっていききたいと考えて活動しています。

活動内容なんですが、主にインタビュー記事とコラムを、運営する web サイト上で掲載しています。いろいろな背景があり、障がいや福祉とつながっている方にインタビューをし、記事を作成しています。そして、私たちのターゲットは 30～40 代の女性をメインターゲットにしています。

結果的に、昨年度から活動を開始し、読者アンケートを見ると、30～40 代の方が 71%です。また、障がいのある方とかかわったことがない方にぜひ伝えていきたいというのがありまして、障がいのある方とのかかわりがこれまでなかったですという方は、全体の読者のうちの 45.2%という結果が出てきました。私たちとしてもすごくうれし

い内容になっています。

この記事を読むことによって、いただいている感想としては、障がいとは特別なものではないことを知った。福祉や障がいについてほとんど知らなかった自分でも、わかりやすく、読みやすく、入りやすかったですという言葉をいただきました。なので、障がい・福祉を知るきっかけになっていたり、あとはインタビューさせていただいたお相手のインタビューイの方々の活動のエンパワメントにもつながっているというのが私たちの活動です。

次に、昨年度、スタート支援コースありがとうございましたということで載せさせていただきます。全く活動ができてないスタートだったんですけども、とらせていただいたことで、インタビュー記事を 19 本、ニュースレターも 6 本発行することができました。

また、寄付金というのをいただいたほうがいいと言うと変なんですけれども、そういう動きもしていきましょうということを教えていただいて、実際に2月からスタートし、このデータは6月の時点なんですけど、今までに 15 万 2306 円のご寄付をいただくことができました。その中でも、継続寄付という形でご寄付いただいている方々が 13 万 2696 円ということで、本当にありがたく、ここからランニングコストを出すことができるようになってきました。

次のステップとして、私たちに必要なことは何だろうと考えたときに、まず1つ、webメディアという名前を名乗るのであれば、サイトの閲覧者数や、サイト内の記事と、こののを、もっともっとやっていかななくてはいけないということと、サイト自体を検索しやすく、見やすいものにしていきたいと考えています。

主な柱としては、活動環境の効率化を図っていくことで、サイト内の記事を充実させたい、webサイトのリニューアル、また、サポーターという言葉を使ったんですけども、賛助会員の皆さん向けのイベントの企画も今後やっていきたいと思っています。

では、今回の事業は何なのかというところと言うと、今出てきた3つの中の上の2つになります。活動環境の効率化と web サイトのリニューアルを行っていきたいと考えています。今後の活動の基盤にしていくことが目的です。

そこで、3つの柱を整えていくことを私たちは考えました。1つ目が「見やすさ、読みやすさ」、2つ目に「検索のしやすさ」、3つ目に「記事の拡充」です。私たちのサイトは、多くの記事が掲載されていて、かつ読みやすく、検索しやすいことを目指してい

ます。

次に、具体的に何を行うかということですが、1つ目の「見やすさ、読みやすさ」というところで言うと、トップページのカテゴリー分けですね。今「障がいとは」とか、いろいろ分かれているのですけれども、カテゴリーに分けることで、またいでしまっているカテゴリーがあったりして、同じ記事が連続で表示されてしまっていたり、新着記事が5個しか出ていないということで、トップページが見にくい。そこを改善することと、あとメディア・ユニバーサル・デザイン（MUD）の導入を行っていきたいと思います。

次に、メディア・ユニバーサル・デザインなんですが、詳しくは後ほど質問などしていただければと思うのですけれども、一般の方と、色覚障がいのある方ですと、見え方が違います。また、ご高齢の方で、白内障をお持ちの方や、弱視の方ですと、こういった形で見え方が変わっています。誰にとっても読みやすく、見やすいものを構築し、それをサイト上でも実現していきたいと思っています。

次に、検索のしやすさというところですが、私たちはNPO法人の soar さんという方々のサイトをイメージして、それと全く同じものをつくるわけではないのですけれども、検索のしやすさを考えています。

私たちは今フリーワード検索しかないのですけれども、ここのサイトでは、フリーワード検索とジャンルボタンの設置を行っています。ジャンルボタンというのは、こういった形で、例えば「障がいのかたち」というところを開くと、「ジェンダー」、「発達障がい」などの具体的なキーワードが出てきます。それ以外にも、「悩み」や「願い」というところをクリックすると、またその中で「心の回復を考える」とか、具体的な事例が出てくるようになっています。これはすごく大切なことで、特に障がいのある方とかかわったことがない方であれば、具体的なキーワードを見せるというのはより一層大事なかなと思っています。

最後、記事の拡充についてです。1カ月3記事をベースに、コンスタントに取材・編集・校正を行っていきます。そのために、私たちはタブレットの端末を導入したいと思っています。そうすることで、どこにいても記事の作成が可能になります。

スケジュールについては、もう既に提出してあるとおりです。リニューアル工事を行う前にアンケートをとること、その後、繰り返しアンケートをとることで、内容を深めていきます。

予算の使い方です。こちらもごらんいただければと思うのですが、団体拠出金については寄付のところから出させていただけようとは私たちは考えています。

目指す成果目標・評価というところに関しても、先ほどの3つのポイントで当てはめていっています。具体的にはこちらの冊子の中にも書いてありますので、ごらんいただければと思います。

最後です。2年後には具体的なリアルなイベント、3年後にもということ考えています。そのために私たちに必要なことは、ファンをつくっていくことだと思っています。コロナ禍で動けない今だからこそ、ホームページをきちんと整えていきたいです。

(坂井部会長) では、発表を終わっていただきまして、これから質問させていただきます。

質問のある委員、よろしくお願いします。

(山岡委員) いろいろよかったですね。寄付も集まったし、コンテンツもすごく充実してきていると思っています。

費用のところ、今回、広報費 50 万円という形で支出のところに書かれていますのですけれども、これはどういう形でやられるのか。要するに、今回 Web サイトのリニューアルということでもいいと思うのですけれども、今後もっとこうしていきたいということがいずれまた出てくると思うので、そういう Web サイトのほうを改善していくときのノウハウが団体の中に残るといいなと思っています。要するに、業者にポンとやってくれという形だと、あまりよくないかなと思っていて、どんなやり方や、どういう業者にどんな形でこういうことをやってもらうというお考えがあれば教えてください。

(障がいのアナ) 駆け足での発表になってしまったのですけれども、広報費 50 万円の中の内訳としては、Web サイトの改修に 45 万円と、アドビのコンプリートプランで月々かかるという形で出させていただいております。

今いただいたご質問については、おっしゃるとおり、私たちはホームページを1回改修する。頼む相手としては、もともとつくってくださった方に頼もうということで、見積もりを出しています。ただ、おっしゃるとおり、そのまま改善して、次に変えるときに、また 20 万かかる、30 万かかるとなってしまうと、永遠にホームページにお金がかかってしまう状態です。

私たちが考えているのは、もちろんホームページを大きく変えるというのは、業者さんに頼まないとちょっと難しいのですけれども、先ほどお伝えしたユニバーサル・デザインの部分に関しては、私と重野のほうで勉強をして、つくってもらうホームページの

会社さんにも、自分たちで、こういう色を使ってほしいんだ、こういう文字を使ってほしいんだということで、その頭の部分を私たちの団体の中でやっていきたいなと思っています。そうすることで、本来であれば例えば監修をつけてとか、あと、アドバイスをしてくださる方に謝礼をという形なんですけれども、そこではなく、自分たちに力をつけるということです。

きょうも少し冊子を持ってきたのですけれども、例えばオフィス文書のユニバーサル・デザイン講座ということで、これはオフィスの文書になっています。ユニバーサル・デザインのフォントであったり、メディア・ユニバーサル・デザインのアドバイザー検定というのがあって、一通り勉強ができるような形になっています。まず自分たちで力をつけて、それこそ市内の方々にもアドバイスができるような形で、そういった記事も書いていきたいなと思っています。お答えになっているでしょうか。

(山岡委員) そうであれば、そういう費用も支出のところに入れていただいてもよかったのではないかな。自分たちの研修費とかですね。入っていないのは別にいいのですけれども、入れていただいても当然いいのではないかと思います。

(間山委員) 現状の会員数と、あと、これから会員数をふやす。当然これでリニューアルして、宣伝をしてふやしていくというところはあると思うんですけれども、直接的に施設の方に会員になってもらうとか、そういうツールをお考えなのかどうか、教えてもらっていいですか。

(障がいのアナ) 現状ですが、私たちの団体は正会員5名でやっています。それ以外に賛助会員は年会費5000円という形になっているのですけれども、ゼロ人という形です。

私たちの目指す姿というのは、賛助会員、サポーターになってくださる方に、例えばインタビューさせていただいた方との交流会、ただ、それはコロナがあるので、オンラインなのかなとか、いろいろ考えているのですけれども、そういったところに特別参加できるなど、特典をつけていき、その人数を、今回のこの事業の間に、20人を目標にしています。

20人入っていただけると、そこで最低でも10万円程度のお金がいただけることになり、もちろん寄付もふやしていきたいというのはあるのですけれども、メンバーがふえることによって、私たちの事業がもっともっと広がっていきますので、目標は20人。そして、ターゲットとしては、インタビューさせていただいた方であったり、あとはそのつながりの方や、その方を応援している方というのもいらっしゃるの、そういった

ところにお声がけをしていきたいと思っています。

私たちがうれしいところは、チラシを配架したいですと前回のスタート支援のときに言ったときに、一般のと言ったらいいのでしょうか、福祉施設だけではなくて、お店屋さんであったり、雑貨屋さんだったり、いろいろなところが置きますよと言ってくさっていたので、その一つ一つを丁寧にしていきたいなと思っています。

(樋口委員) 個別事業責任者の中に編集・校正で深見さんの名前があるのですが、彼がハビリスデザインというか、障がいのああいう事業もやりながら、この編集・校正にはかなり深くかかわっていらっしゃるのでしょうか。

(障がいのアナ) 主に5名しかいないということもありまして、みんなでやっているというところは大きいのですけれども、私たちのインタビューの流れとしたら、私、重野、深見で、この方にインタビューをしよう、どんなことを聞いていこうかという話し合いをしてからインタビューに臨むようにしています。

校正のところと言うと、もちろん文字もそうですし、あとは福祉の立場から見て、この言葉はどうなのかとか、そういったところも見ていただいています。

私は看護師だったり、社会福祉士だったりみたいな形で、私たちは結構資格があったり、橋渡しというところを大事にしているので、みんなで力をギュッとやっている感じですか。

(坂井部会長) それでは、時間になりましたので、質問は以上とさせていただきます。どうもお疲れさまでした。

(団体入れ替え)

#### ④SASP

(坂井部会長) 司会進行を務めます坂井と申します。よろしくお願いします。

それでは、SASPさん、「ミニミュージカルとワークショップの実施」についての発表をお願いします。

(SASP) これからSASPのプレゼンテーションを始めさせていただきます。

私は副代表の須田有砂美と申します。よろしくお願いいたします。

まず最初に、簡単に団体紹介をさせていただきます。

当団体は日本の文化芸術振興のために集まったパフォーマンス集団で、メンバー全員



が元子役で、幼少のころから現在まで芸能のプロの世界に携わってきた者たちです。

この元子役というのが実は意外と知られていないということがわかりましたので、参考までに当団体の代表、小宮のプロフィールをご紹介します。

全部書くとこれぐらいあるのですが、主なものを見ていきますと、右上のドラマ「水戸黄門」とか、真ん中の歌舞伎座で市川海老蔵さん付の禿役をやっていたり、左側の舞台でミュージカル「ピーターパン」や「レ・ミゼラブル」などにも出ています。

私も代表と一緒に歌舞伎やミュージカル「レ・ミゼラブル」などに出演していました。

このように子役は、テレビから声優から舞台からと幅広くいろいろなことをやっていて、もちろん、そのためにも幼少から厳しいレッスンを受けてきていて、現在も続けております。学生中心の団体とはいえ、このようなプロの世界で経験をしてきた私たちだからこそ、子どもたちに教えられること、伝えられることがあると考えています。

次に、なぜ文化芸術が子どもたちに必要なのかというところを簡単にお話しさせていただきます。

これは「主要国の『国家予算』における“文化予算”と“寄付金”の割合」でございます。実は日本は欧米に比べて、国家予算における文化予算の割合がとても低い国です。

それはなぜかといいますと、日本は学歴社会で、知識偏重型の集団教育が主流で、個性や多様性は重要視されてきませんでした。

しかし、AI化が進み、ほとんどの職業がなくなると言われているこれからの時代に必要なのは“人間にしかできない事”ができる人間であると考えています。

文化芸術は、今まで社会が重視してこなかった個性や独創性、多様性、そして想像力を育むことができます。感情を表現することで、コミュニケーション能力が向上し、国際化社会でも通用する人間を育成することができます。

価値観が変われば世界が変わるので、人と違うことをする人間をいじめる傾向にあった時代から、人と違うことはすばらしいと尊敬される時代へ、また、人と違うことはすばらしいことを尊敬される時代になると、いじめや差別のない社会ができると思います。そのために文化芸術は非常に高い効果があります。

そして今回の助成金事業ですが、実は既に昨年度、「Fujisawa こどもミライカナエル project」という名称で子どもたちに歌やダンスのワークショップを行って、集大成のコンサートを行いました。

今からそちらの映像を流します。ごらんください。

実際にこのようなワークショップを4回受けて、プロの私たちがやっているようなことも子どもたちに教えております。

これは正しい発声法の練習をしています。

これは実際のコンサートの映像です。昨今のコロナの状況を踏まえて、こちらは無観客、生配信で行いました。

彼が代表の小宮でございます。

実際にメンバーもこのようにパフォーマンスをさせていただいています。

これは実際に子どもたちが4回のワークショップで行った練習を踏まえて発表したものでございます。小学生が4回の練習で人前で歌うことはなかなか難しいのに、すごく楽しそうに歌ってくれています。

子どもたちの表情をごらんください。すごく楽しそうに歌ってくれています。

これは5月22日に行われた海上自衛隊の横須賀音楽隊の皆さんと一緒させていただいたときの映像でございます。オリンピックのイベントです。

これらの動画を見て、内容は大体わかっていただけたと思いますが、実際のワークショップでは、子どもたちの悩みを聞いてあげたり、いいところをたくさん褒めてあげて、自信を持たせてあげたり、努力する楽しさを知ってもらったり、コミュニケーションを通して、さまざまな副次的効果がたくさんありました。

今回はさらに特別講師として、ふだんはなかなか教わることができないような先生を呼んできたり、コンサートの内容も、よりミュージカルに近い、ミュージカルのワンシーンを演じるようなこともやっていく予定ですので、子どもたちにとっては、人生を変えるようなかけがえのない経験になるのではないかと考えています。どうか応援していただけたらうれしいです。

私たちのプレゼンテーションは以上になります。ありがとうございました。

(坂井部会長) では、これから質問をさせていただきます。委員のほうからお願いいたします。

(山岡委員) このワークショップに参加する子どもたちの募集はどんなふうに行われていますかということと、今回の事業の中で子どもたちが何人ぐらい参加される予定、計画ですか。

(SASP) 募集は広報やSNSを通してやっていく予定で、前回参加していただいたのが13名なんですけど、13名はそのまま引き続きやっていきたいということですので、そ

の13名プラス10名ずつぐらいで、ことしは30名を予定しております。

(坂井部会長) 今コロナ禍で大変ご苦勞があるとは思いますが、コロナ対策とい  
いますか、その辺についてはいかがですか。例えば緊急事態宣言とか、いろいろな事態  
が考えられるのですが、そうしたときに、ワークショップとか、あるいはミュージカル  
発表等々、この活動というのはできるのか、あるいは休止ということで考えているのか、  
どうでしょうか。

(SASP) 無観客、生配信というのでできます。

事務局の小宮のほうからお答えさせていただきます。

(SASP) 彼女は、前回の2月のプロジェクトの際には、パフォーマーとして出演をし  
ていただいただけでした。ただ、その中で、私たちの活動に共感していただいて、今度、  
副代表という形で、本年度より本格的に活動していただくことになったので、前年度の  
ことに関しては事務局の私のほうからお答えさせていただきます。

前回、2月23日にこのプロジェクトをやらせていただいたのですが、その際  
に、まさに非常事態宣言下で行いました。その際、賛否両論があったかと思うのですけ  
れども、私どもも本当に悩んだ末にそれを行ったので、聞いていただいたのが本当にあ  
りがたいのですが、まずパフォーマンスアートの世界というのが、対面でやることが何  
よりも一番大切な業界なんですね。

なぜならば、CDなどを通して聞いた音楽と、例えば私が今ここで生で歌ったときに  
伝わるものというのが本当に違うというのは、聞いていただければ恐らくわかると思  
うのです。パフォーマーのほうも、配信でどこかで皆さん聞いてくれているんだろうな  
と思うことよりも、やはり目の前で聞いてくれて、その場で反応をくれることが本当に喜  
びなんです。それで、どうしても生にこだわりました。

もちろんさまざまに言われている対策の全てのものを講じまして、いろいろなことを  
考えた上で行いましたところ、保護者の皆さんたちから、昨今、小学校でいろいろなイ  
ベントが中止になっている。入学式や運動会や、さまざまな行事、体育の授業さえも中  
止になっている。その中で、文化芸術というのは遊びではなく教育であるという考えの  
方がたくさんいらっしゃるって、その教育の機会を取り上げるということに対して、やは  
りよくないと思われるお母様たちが今回参加して下さったので、そのような方た  
ちから、「こんな時期だからこそ、子どもたちにこのような教育の機会をつくっていただ  
いて、本当にありがとうございます」という感謝のお声をいただきました。

私たちも、本当にやってよかったという形になりましたので、今後どのような状況になるかはわかりませんが、できるだけ対面にこだわり、感染症対策をきちっととった上でやっていきたいと思っています。具体的には消毒、手洗い、そういうことはもちろんですけれども、基本的には無観客の配信で行いたいと思っておりまして、そのような予算も計上させていただいております。

(山岡委員) このミライカナエルサポート事業は期限があって、この補助金はいずれなくなると思うのですが、その後はどういうふうにして続けていくおつもりでしょうか。

(SASP) 今までに関しては、若い子どもたちの団体であり、子どもたちを教えるといっても、メンバーもまだ子どもの段階でやっておりますので、まずは社会の皆様にも認知してもらって信用をつけるところからやりたかったのです。お金を儲けるような事業はあまりやらせたくないし、みんなもやりたくないという考えがありましたので、一切の事業を特に行ってはおりませんでした。

ただ、今回、一応信用がついたところから、決して私たちが営利団体ではないことがだんだん認知されてきたので、これからはその状況、私たちの目的とかそういった非営利性をわかっていただいた方々に、ファンクラブとして年会費を募るなどして応援していただいて、その収益を全てこの事業に回したり、あとは、楽曲を自分たちで作詞作曲ができるので、それでレコーディングしたものを販売して事業化したり、あとは、一番簡単なのが、見ていただいたとおり、この子たちは、歌もダンスもできる子たちですので、有料のコンサート、ライブを行えば、収入は簡単に入るのです。ただ、できるだけ非営利だということを打ち出したかったのが、今までそのようなことはしていませんでしたが、今後は考えていきたいと思っています。

(坂井部会長) ほかにいかがでしょうか。――よろしいですか。

では、これで質問を終わらせていただきます。どうもお疲れさまでした。

(団体退室)

(坂井部会長) 以上で全てのプレゼンテーションが終了しました。

この後、休憩としたいと思いますけれども、事務局からご連絡をお願いします。

(事務局) 事務局よりご案内いたします。これで全団体のプレゼンテーションが終了しましたので、ここで約10分間の休憩といたします。

再開はあちらの壁の時計で午後4時20分からといたします。それまでにお席にお戻りください。では、これから休憩に入ります。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

午後4時8分 休憩

午後4時20分 再開

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## (2) 審査選考

(藤沢市情報公開条例第6条第3号に基づき非公開)

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

### 藤沢市市民活動推進委員会

○事務局より、委員会成立の報告が行われた。

(山岡委員長) 皆様、大変お疲れさまでした。それでは、藤沢市市民活動推進委員会として、審査選考部会での選考結果について、改めまして坂井部会長からのご報告をお願いしたいと思います。

(坂井部会長) それでは、報告させていただきます。

採点の結果及び意見交換の結果、部会として、スタート支援コースの採択団体は、とことこ、CSF、NPO法人紙芝居Project、Rankupの4団体といたしました。

ステップアップ支援コースにつきましては、特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画、障がいのアナ、SASP、以上の3団体と決定いたしました。

以上です。

(山岡委員長) ただいま部会長から採択団体についてご報告をいただきました。中立公正な立場から丁寧にご審査いただいた結果だと思しますので、この結果を委員会での決定事項とさせていただきますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」の声あり〕

(山岡委員長) ご異議ございませんので、令和3年度ミライカナエル活動サポート事業のスタート支援コース、ステップアップ支援コースの採択団体につきましては、審査選考部会の決定事項のとおり決定いたします。お疲れさまでした。

それでは最後に、事務局より連絡事項をお願いいたします。

(事務局) 審査選考ありがとうございました。

本日の採択結果につきましては、後日、団体へ郵送させていただきます。

また、本日「団体への意見表」にご記入いただきました審査意見も、後日、団体に送付させていただきます。送付に当たって、表記の細かい修正などにつきましては、事務局のほうでさせていただきますと思います。

なお、ご記入いただきました「団体への意見表」は、お持ち帰りにならず、事務局職員にお渡しくださいますようお願いいたします。

[市民活動推進委員、Web 参加]

(事務局) こちらの全体の会に、本日、西上委員が Zoom からご出席いただく予定になっておりまして、今ご出席をいただいたところでございます。

いま一度、西上委員にお伝えする意味も含めまして、事務局から本日の採択結果につきましてご報告いたします。

まず、令和3年度のスタート支援コースの採択団体は、とことこさん、CSFさん、NPO法人紙芝居 Project さん、Rankup さんの4団体と決定いたしました。

また、ステップアップ支援コースの採択団体につきましては、特定非営利活動法人湘南まぜこぜ計画さん、障がいのアナさん、SASPさん、こちらの3団体と決定いたしました。西山委員よろしいでしょうか。

では、次回の委員会でございますが、次回は9月30日(木)午後6時からとなります。場所は市役所本庁舎7階の7-1会議室を予定しておりますが、Zoomでの開催も想定をしております。詳細につきましては、後日メールでご案内させていただきますので、ご確認くださいませようどうぞよろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷÷

## 閉会

(山岡委員長) それでは、以上をもちまして第4回藤沢市市民活動推進委員会を閉会いたします。本日は長時間にわたり、お疲れさまでした。

午後5時32分 閉会